The Marriage Covenant

And Sexual Sin

結婚の契りと性的罪

アル＆コレット・マーティン

目次

Contents

はじめに

　私たちの周りでは、霊の戦いが盛んに繰り広げられています。通常、クリスチャンはその事に気付いてもいません。この霊の戦いを明確に理解し、速やかに対処しなければなりません。しかし教会は、まず自分たちのただ中に存在する悪の霊について理解しなければいけません。目に見えない悪の勢力、すなわち教会や家庭の道徳を根本から崩そうとしている力の破壊的性質を識別しなくてはいけません。今日、世に存在するあるひとつの領域を通じて、これらの悪の勢力は、年若い者たちまでもそそのかしています。教会員たちは、不信心な者たちと密接に関係することの行く末や、人生の前途に影響を及ぼし危うくするために、敵が如何にこれらの関係を用いるか理解していません。ほとんどのクリスチャンは悪霊の働きを信じると口では言いますが、実際には信じていません。なぜなら、自分たちが実際に鬱状態や何らかの精神的問題を抱えるや否や、心理学者やカウンセラー、精神科医と呼ばれる人たちのもとに駆け込むからです。もしも教会が、このますます激しくなる霊の戦いを直視することを拒むなら、決して十分な権威を手中に収めることも、成熟の域に達することもないでしょう。主イエス・キリストが望んでおられるような勝利者となることもないでしょう。もがいている魂に何の助けの手も差し伸べない軽薄な教会の現状に満足している限り、この無力な状態は続くことでしょう。

　毎週毎週、自分たちの苦闘の解決を探し求めている気の毒な魂が、自由と心の平安を望んで教会を訪れるにもかかわらず、何の助けも与えずに彼らを帰している有様です。イエス・キリストの権威をもって彼らに勝利する秘訣を教え、日々勝利に勝利を重ねる方法を示すことのできる人物は、一体どこにいるのでしょう。教会は、ますま

す世と同化してきており、その実態は、ありとあらゆる不潔な行為の溜まり場と化しています。更に悪いことに、教会は罪を正当化しようと試み、特に性の分野において、個人の好みによるという言い訳をしているのです。

過去 17 年間の伝道生活において、私たちは何度も、ある困惑させられるような状況に遭遇しました。祈りの結果、すばらしい勝利の経験も見てきました。にもかかわらず、このような勝利を継続することができずに、罪の生活へと逆戻りする人も少なくありません。多くの場合、敗北の原因はイエスとの関係を断ってしまったことにありますが、これが原因のすべてではありません。人間の目にはすべての行いが正しいように見えても、堕落するたびに味わう挫折感は現実として付きまとうのです。私たちもずっと、問題の真髄を見極めることのできる洞察力をくださいと祈ってきました。そして今、主が私たちの祈りに答えつつあると考えています。

様々な媒介を通じて、主は私たちに、ある特定の領域におけるきわめて重大な事柄について感銘を与えてくださいました。その分野は人々に対して強烈なインパクトを持ちながら、多くの人がその重要性について悟っていないのです。その領域とは恋愛関係、中でも不正な性的関係、あるいは二人の人間を結び合わせるところの関係ともいえます。今日、このようなたぐいの関係は非常に軽率に扱われ、あまり重要でないとすら思われています。非常に多くの人たちが、思いのままにくっついたり離れたりし、結果を考えもせず、次から次へと様々な相手と親密な関係を持つに至ります。人と人との関係には必ず結果が伴い、ある時には益となるが、破滅をもたらす場合も多いことを、聖書は明示しています。サムソンの生涯は、親密な関係が如何に破滅の原因となり得るかの典型的な例です。彼の生涯の目的は神の強力な使者となることでしたが、彼がある親密な関係にのめり込んだとき、すなわち誤った女性と結婚したときに大

きく方向転換したのでした。

今日の世界は相対主義、すなわち「何でもOK」、「人それぞれ」、「気持ち良ければそれでいい」といった思想がまかり通っています。職業や娯楽、結婚や様々な個人的関係のすべてが、何でも受容し、許容するという風潮に影響されています。誰もがテレビ・コマーシャルの爆撃を受けています。セサミ・ストリートのビッグ・バードは、男女の役割交換を奨励しています。テレビのコマーシャルやトーク番組、映画を通じて、同性愛者らが自分たちの価値観を大衆に押し付けています。ただ視聴率を上げるために、トーク番組では極めて風変わりな性が美化されています。高速道路の広告掲示板にも、ポルノではないかと思えるほどきわどいものが見られます。そして無論、学校において神聖なものは存在しません。我々はそれぞれ自分で自分の責任をとるだけでよく、いかなる道徳基準にも束縛されなくてよいという風潮がはびこり、各自が自分勝手に基準を定めている有様です。直接他人を傷つけない限りは、何をしても構わないといった風潮です。このような相対的態度が、雑誌やテレビ、ラジオや映画を通じて世界中で奨励されています。それは全く正当であり、道徳的に間違ってはいないと考えさせるような方法で奨励されているのです。最も悲しいのは、これと同様の風潮が多くの教会員の間で見られるということです。

悲惨な結果をもたらすのは結婚外の関係においてだけでなく、夫婦間の交わりにおいても罪悪がはびこり、時には多くのクリスチャン指導者の是認を得ている、という事実にも直面しなくてはいけません。

多くの指導者らが夫婦間の交わりをあまりにも軽くみなし、夫婦間で同意してやることなら何でも構わないといった考えを奨励しているのです。禁断の木の実を食べたアダムとエバについて考えてみ

て下さい。相互の合意があったからといって、彼らの選択は正しかったでしょうか。相互の合意があるからというだけで、何をしても大丈夫というのは、大きな誤りです。結婚のすばらしく親密な関係においてさえ、私たちが行うすべての事は、聖書に網羅されているイエス・キリストとの関係に基づいていなければいけません。生活のこのような側面においてイエスを考慮に入れるとき、私たちの考え方は驚くほど変わっていくことでしょう。

結婚における性の領域について語るのは大変な勇気を要することで、ほとんどの人はしり込みしてしまいます。はなはだばつの悪い不快な話題であり、臭い物にはふたといった状態です。その一方で、致命的な結果をもたらしているのです。ことセックスのテーマになると、ある見当違いの倫理が説かれたり、黙殺されたりします。それは、人類の最も無防備な領域であるにもかかわらず、人の感情を最も強力に魅了する道具ともなります。しかし、なぜその事について語るべきではないのでしょう。聖書では、始めから終わりまで性の話題をオープンかつ率直に取り扱っています。明らかに大人たちは、この主題について子供たちに語るのを恥ずかしがります。子供たちがどのようにセックスについて学ぶのかという統計を見ると、１パーセントが教会で、３パーセントが父親から、７パーセントが学校で、12パーセントが母親から、28パーセントがマス・メディアから、そして何と49パーセントが友達からとなっています。それのどこがおかしいのでしょう？

考えてみて下さい。なぜ私たちは、セックスについて語るのを恥ずかしがるのでしょう。神がそれをお造りになったのに。アダムとエバが性的関係を持ったとき、神はそこから目を背けて、「やれやれ、何ということだ。とても見ちゃいられない」と言われたのでしょうか。

序 文

本書を出版する理由——性的な罪悪を通して、悪魔は世界を一つにつなぎ合わせようとしています。パソコンの操作法さえ分かれば、インターネットという媒介を通じて、誰でも不道徳な性にあずかることができます。学校における露骨な性教育は、若者たちの間でみだらな性的欲望をあおっているに過ぎません。テレビから高速道路の広告掲示板に至るまで、セックスが闊歩している有様です。つまり、性的罪はますます盛んになり、世界規模に膨れ上がっているということです。

若者だけでなく、老若男女にとって、みだらな性行為は悪魔の最も有用な道具となっています。悪魔は、Ｉコリント６：16の聖句をよく理解しています。「・・・遊女につく者はそれと一つのからだになることを、知らないのか。『ふたりの者は一体となるべきである』とあるからである」。世の人々ができるだけ多くの人と性交渉を持つようけしかけることによって、悪魔は世界を「一体」化しようとしています。性交渉には精神的な絆が伴うことを、彼は理解しています。これらの絆はその人を縛りつけるようになり、生活を変えてこれらの悪習をやめたとしても、その人に付きまとうことを、悪魔は良く知っています。人を苦しめるために、彼はある特定の法的権

利を利用することもあるのです。これらの絆は破壊しなければなりません。残念ながら、この種の行為が、キリストの体なる教会においてなされているのです。

悪い魂の絆があると同様、良い魂の絆もあります。キリストの体の一員として、私たちは霊的に結ばれています。それは良い事です。しかし、体内で起こっていることは、善かれ悪しかれ全身に作用します。キリストの体を構成している一人が性的罪に関与しているとき、全体に悪影響を及ぼします。この性的罪という道具を、サタンは極めて効果的に用いています。この罪を通して、神との霊的魂の絆を断ち切ることができ、神の民が、世界歴史の終末に勝利しようと大胆に前進する霊的軍隊となるのを妨げることができるのを、彼は知っているのです。

世界歴史は間もなく終わろうとしていると、私たちは考えています。預言のしるしは、異常な速さで立て続けに現れています。国々は不穏な状態です。あちらこちらでテロや戦争が勃発しています。かつてキリスト教国とみなされていた国々が、キリスト教の原則に関わるものに対して、ことごとく背を向けています。麻薬やセックスにより、幾千幾万もの若者が破滅に追いやられています。ヒューマニズムの思想が、世の中一般だけでなく、教会をも飲み込んでいます。

如何に大いなる悪がはびこっていようとも、心の正直な人たちを呼び出して、自らの生命を清め、失われた魂を救うために神が力強く働かれる時に備えるよう促す時が来ています。私たちの生活に対して悪魔が持っている権利は、ことごとく覆されなければならないことを悟るべき時が来ています。それは、魂の敵が私たちを堕落させてイエスとの関係を破壊するために利用する、すべての苦闘や受

け継がれた傾向から救出されるべき時なのです。私たちがイエスの証人となるのを止めさせられるものなら、サタンはどんな手段をも用いることでしょう。

私たちをサタンに縛り付けたり、特に性的罪の領域において、彼に同意したい心境にさせるようなあらゆる世の邪魔者から、私たちは自由にならなくてはいけません。これらの問題が解決されない限り、決して聖霊のバプテスマを経験することはできません。キリストとサタンの間で激化している大争闘というドラマの最終回に起用されるように、私たちの生涯を備えるべき時が来ています。

後の雨において聖霊の更に大きな力を受ける備えのために、今私たちは聖霊のバプテスマを必要としています。後の雨により、かつて想像したことも経験したこともないほどの力を受けて、私たちは世に出て行くのです。

聖霊のバプテスマには、いくつもの重要な意味があります。次に、デニス・スミス著、「聖霊のバプテスマ」の３ページを引用します。

> 「聖霊のバプテスマという概念は、聖霊には二つの働きがあるというものである。一つは、我々がキリストを受け入れてバプテスマを受けるように導く働き、二つ目は、我々が真のクリスチャン生活を送り、神の御業を行うことができるように、我々に内住する働きである」。

> 「イエスが、すべての事柄における我々の模範である。彼は御霊によって生まれ、幼児期から青壮年時代に至り、バプテスマを受けられるまで御霊に導かれた。この水によるバプテス

マの直後に、彼が祈り求めていたところの聖霊のバプテスマを受けられた。御霊の充填を受けられた後、サタンとのかつてなかったほどの対戦（荒野の誘惑）に臨む用意ができたのである。神の国について宣べ伝え、人々を癒し、悪霊を追い出す働きを続ける力を受けられたのであった」。

ですから、私たちをがんじがらめにしているすべての束縛を断ち切るよう訴えたいと思います。結婚における男女の親密な結合を通して、イエス・キリストが私たちとの間に築きたいと望んでおられる親密な関係を、もっと十分に理解することができるのです。

神は今、ご自分の軍隊を召集しておられます。神の戦士たちに向かって、ますます深まる罪の淵から出てくるよう、そしてすべての邪魔者をかなぐり捨てて、強力な戦士として立ち上がるように、呼びかけておられるのです。私たち全員が、王の王と共に、また主の主のために進軍する決心をするように、そして王なるキリストが御業を終えられ、皆で天の故郷に帰ることができますように。これが私たちの切なる祈りです。

第一章：性と結婚の契り

神が意図されたところの結婚と親密な関係について学ぶとき、夫と妻の性というスペクトル（光をプリズムなどの分光器で分解したとき、虹のように波長別に並んだ成分）を、全く異なる光の中で見ることでしょう。

ボンヘッファー博士は次のように書きました：「結婚とは、互いに対する愛情以上のものである。そこには更に高い尊厳と力が存在する。なぜなら、結婚は神の聖なる定めであり、神は結婚を通 して、人類を時の終わりに至るまで永続させようと意図しておられるからである。恋愛中は、お互いの事しか目に入らないが、結婚すると、二人は世代から世代へとつながる鎖の環となる。神はご自身の栄光となるように、各世代を世に生まれさせ、過ぎ去らせられたのである。・・・」（クリスチャン・ファミリー、 9 -10 ページ）。

また、次のように付け加えています：「従ってクリスチャンの家族は、それ自体のために存在するのではない。人の祝福は派生的（他から分かれ出たさま）なもの、つまり副産物なのである。自分たちだけの幸福と便宜に固執する者たちは、結婚と家族について神が計画された事柄を決して理解することがない。なぜなら彼らは、根元的な構造、すなわち基本的な始点を理解していないからである」。

今日、「結婚がうまくいかない。崩壊寸前だ」との叫びが聞かれ

ます。けれども、それは結婚が失敗だということでしょうか。もしもあなたが新車を購入して、マニュアル（取扱説明書）どおりに車を扱わなくてもいいと決断したら、車はどうなるでしょうか。車はいずれ故障してしまうことでしょう。その場合、責めを負うべきなのは車のほうですか、それとも仕様書にしたがって車を取り扱わなかった人のほうですか。様々な人々が、自分たちのやりたいようにやろうと考えて、自分勝手に結婚マニュアル（手引書）を書き替えています。彼らは、真の結婚マニュアルである聖書に従わないので、そのしっぺ返しを食らっています。お分かりですか。問題は結婚そのものではなく、男女がそれをどう取り扱うかなのです。多くの場合、結婚が男女の欲望を満たすために用いられています。「私を幸せにして」「俺を喜ばせろ」といった考え方です。今日、ほとんどの結婚の中心に自己が居座っています。これは、神が意図された結婚と正反対の思想なのです。

別の見解になりますが、ジャーマイン・グリア博士（女性解放運動家）は、「結婚は不道徳」であり、二人の人間の結合（単一体を形成）は別個の二人に劣る故、結婚は社会を弱体化させる、と述べました。

無論これはヒューマニズムの思想であり、神が意図された結婚に相反します。ここでも、自己が中心に居座っているのです。

神の方法と理想は、的外れのヒューマニズム思想よりもはるかに勝るものです。ここで、結婚（男と女の結合）に関する聖句をいくつか見てみましょう。

> 「夫たるものよ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめ

て聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自身に迎えるためである。それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。わたしたちは、キリストのからだの肢体なのである。『それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである』。この奥義は大きい。それは、キリストと教会とをさしている。いずれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい」（エペソ５：25-33）。

上の聖句を理解するには、ここでパウロが反対していた状況を考えるのが有益です。当時、ユダヤ人たちは女性を大変低く見ていました。多くのユダヤ人男性が、朝の祈祷で、自分が異邦人、奴隷または女に造られなかったことを神に感謝したと言われています。ユダヤ人男性は、女性を人間としてではなく、物つまり所有物として見ていました。女性は権利を持たず、男性の絶対的な支配下にある物として見られたのでした。彼の思いのままに動く所有物として。

ギリシア人の社会では、更に悪い状況でした。売春は不可欠なものとして、ギリシア人の生活に密着していました。デモテネスは、このように述べています：「我々は快楽のために娼婦を有し、同棲のためにめかけを有し、合法的に子をもうけるため、またあらゆる家庭の営みを円滑にする忠実な管理者として妻を有する」と。このような考え方では、家庭は崩壊の一途をたどり、貞節など存在するはずもありませんでした。

ローマにおいては、更に悪い状況でした。まさに、悲劇の深みにまで達したと言えます。家庭生活は完全に崩壊していました。

女性たちは離婚するために結婚し、結婚するために離婚した、とセネカは書いています。男女が多くの結婚と離婚を重ねていたという、歴史的記録があります。ジェロームが、ローマにおける一例を挙げています。ある女性がいて、彼女が２３番目の夫と結婚し、彼女自身は彼の２１番目の妻だったというのです。結婚の絆は、ほぼ完全に消滅していました。結婚の契りも、献身もあったものではありません。ローマ人の状況は、私たちの時代と多くの類似点があります。

夫と妻の関係について、パウロがこれほどの熱意をもってエペソびとに書いたのは、このような背景があったからでした。彼は男女に向かって、結婚の絆において、新たな純潔と親交に入るよう呼びかけていました。結婚は、より高い境地へと人を導きます。なぜならそれは、キリストがご自分の教会と、そして個人的基盤においては、私たち一人一人との間に望んでおられる親交と親密な関係の象徴だからです。

エペソ人への手紙５章において、結婚に関するパウロの教えの真髄を見ることができます。クリスチャン同士の結婚は、地上で最も尊い関係であります。キリストと教会の関係を表しているのですから。「夫は妻のかしらである」という聖句を理解するのは、極めて重要です。この聖句は多くの場合、支配権を争うときに、この部分だけが引用されて用いられます。しかし、この聖句の基盤は、支配権ではなく、愛なのです。

この愛とは、自己犠牲的な愛のことです。キリストが教会を愛されたように、夫は妻を愛するべきだと言うのです。これは、「私を幸せにして」「俺を喜ばせろ」といった利己的な愛とはなり得ません。キリストの教会に対する愛は、教会のキリストに対する愛にはるかに勝るものです。キリストは、教会のためにご自分の命を捧げられました。同様に、夫も妻のために命を捧げるほどの、深い無我の愛を抱くべきなのです。世の中はおろか、今日のキリスト教界においてさえ、このような愛はほとんど見られません。キリストが教会を脅したりすることは決してありません。ご自分が望むことを行わせるために、教会を虐待することもありません。教会がご自分に忠実でないからといって、愛情が冷めることもありません。

ここでパウロは夫たちに、キリストを模倣するよう教えています。イエスは決して、意志に反して人を支配なさいません。

故に夫たちは、自分の思いのままに妻を支配しようとしたり、あるいは妻を自分の型にはめようと求めるべきではないのです。自己犠牲的な愛とは、妻を喜ばすために、夫が自分自身の願望さえも犠牲にするということです。これは夫が妻を神格化する、あるいは彼女を喜ばすために自分の良心に背くということではありません。それは、妻のことを人生の優先事項とし、真心から己を捧げることなのです。

エペソ人への手紙に、興味深い聖句があります：「・・・水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするため・・・」。ここでパウロはバプテスマ、すなわち水で洗うバプテスマと、信仰告白について述べているのです。この聖句は、人や教会を清める愛と関連があります。キリストは、一点のしみもしわもなくなるまで、教会を清めようとなさったのです。結婚も同じです。

妻に対する夫の重責がお分かりですか。妻をぼろぼろに傷つけるのではなく、彼女を元気にする愛情を示さなくてはいけません。もしも夫がエペソ５章を読み、正直であるなら、妻をやっつけるためにこの聖句を用いることは決してできないはずです。彼女に対していかなる虐待を与えることも正当であるなどと、決して言うことはできないでしょう。人を引きずり落とす愛は、偽物です。品性を精錬するのではなく、しみをつけ、道徳性を弱めるような愛は、何であっても欺瞞です。真の愛は、生命を清める作用をします。

相手のことを思いやる愛です。エペソ５章で、人は自分の体のように妻を愛さなければならないと述べられています。真の愛とは、自分の必要を満たすことを第一とする利己的なものではなく、ひたすら愛情の対象をいとおしむことです。妻とは単に、自分のために食事を作り、自分の衣服を洗濯し、自分の家の掃除をし、自分の子供を産み育て、自分の性的欲望を満たす存在であると男性が感じるならば、何かが大きく間違っています。これでは、奴隷制と何ら変わりません。

パウロが述べているところの愛とは、決して壊れることのない愛です。人をその父母から離れさせ、妻に結びつけるのが、この決して壊れることのない愛なのです。彼らは一体となるのです。身体の各部分が一つの体を構成するように、夫と妻は一体となるのです。自分の手足を切り取ろうとは考えないように、人は妻と別れようなどと決して考えるべきではありません。夫は妻に結ばれているのです。彼らは、神の下で共に合わせられたのです。

マルコ 10：７，８に：「それゆえに、人はその父母を離れ、ふたりの者は一体となるべきである」とあります。

その原因または理由は、妻と固く結ばれ、一体となるためであります。二人の生涯を結び合わせ、自分の体のようにお互いを思いやるのです。

クリスチャン同士の結婚において、パートナーは二人ではなく三人であり、三人目のお方がキリストです。これらの三者が一つとならなくてはいけません。夫と妻が担おうとしているこの職務は、高貴で神聖なものなのです。動物的欲望と利己心に基づくゆがんだ関係が入り込む余地はありません。夫からも妻からも、言葉のまたは肉体の虐待が行われる余地はありません。互いに対してキリストのような愛情を与える権利以外の権利を、聖書は夫にも妻にも与えていません。偽りの解釈の下、妻を打ちたたいて服従させるための道具として、エペソ５：25-33を用いる人たちがいます。支配欲が顔を出すときにはいつでも、悪霊が関わっています。このような振る舞いは、悪魔的以外の何ものでもありません。できる限り結婚を崩壊させること、これがサタンの理想なのです。

夫と妻との間の愛情関係とは、第一に相手のことを思いやる関係です。これは、今日世の中で見られる結婚関係とは正反対のものです。世の中では、自分自身の利益ばかりが優先されています。「私を幸せにして」、「俺を満足させろ。でないと別の相手を探すぞ」といった考え方です。

聖書では、「愛」という言葉がどのように使われているでしょうか。ギリシア語聖書においては、「愛」を意味する四つの言葉があります。

最初が「エロス」です。これは、愛を得るという意味に使われます。通常「エロス」は、性的な愛に結び付けられます。根底にある要素は、願望、所有欲、満足の追求であります。エロスが存在するのは、

それが相手に何か望ましいものを認めるからです。願望の風が吹いたり止んだりするように、エロスは気まぐれです。

二番目が「ステルゴ」です。これは、相手を思いやる愛です。これは、私たちが相手に対して抱く自然の愛情です。人間として私たちは、人類同胞である他の人々を愛します。

この愛は、すべての人は共に密接に結ばれていて、相互に依存し、互いに義務を負っていることを認めます。これこそ、欠乏している隣人に対して私たちが表す愛、または貧しい者や空腹の者を助けるよう私たちを促す愛なのです。

「フィロス」が、愛を意味する三番目の語句です。これは「分かち合う愛」です。この言葉は、親しい間柄の人たちに私たちが抱く愛情を表現します。それは、愛情を交わすときに生じる喜びに応えるものです。

それは、友人の間または家族間の愛です。それは共通の利害、共通の魅力、多くの親密な分配に基づいています。

愛を意味する四番目のギリシア語が、「アガペー」です。これは「与える愛」です。それは、人をして他の人を益するために犠牲を払わせるところの愛です。この愛は、受けるよりも与えることを求めます。アガペーの愛は、たとえ他人がそれに応えなくても愛し続けます。アガペーの愛は、見返りを一切求めることなく愛し続けるのです。

夫や妻たちは、お互いのためにこれら四種類の愛を持ち合わせるべきであり、中でもアガペーの愛が支配的であるべきです。アガペーが他者を支配しないと、他の三者は無味乾燥なものとなり、結婚の

衝突と困難に耐えることができなくなるでしょう。エロス、ステルゴ、フィロスはどれも、アガペーによって支配され、豊かにされるべきなのです。

結婚は血の契約

　結婚についてもう一段掘り下げ、男女が結婚するときに交わされる契約について考えて見ましょう。「契約（契り）」の定義は何ですか。それは、拘束力のある合意であります。ヘブル語では「ベリツ」となり、実際には「契約を切る」という意味です。古代イスラエルにおいて、契約が作成されたとき、それは血を流すことによって成されました。一頭の生き物が真っ二つに切り裂かれて、地面に置かれました。それから契約の当事者は、血まみれになった肉の塊の間を歩いたのでした（創世記 15：９-18 参照）。二者間の血の契約は、あらゆる取り決めの中で、最も親密かつ永続する、また最も厳粛かつ神聖なものなのです。あなたが誰かと血の契約を交わすとき、･･･死が二人を分かつまで、あなたはその人に、あなたの生命と愛と保護を永久に与えると約束するのです。結婚は血の契約であり、マラキ２：13，14 にはこう書かれています：「あなたがたはまたこのような事をする。すなわち神がもはやささげ物をかえりみず、またこれをあなたがたの手から、喜んで受けられないために、あなたがたは涙と、泣くことと、嘆きとをもって、主の祭壇をおおい、『なぜ神は受けられないのか』と尋ねる。これは主があなたと、あなたの若い時の妻との間の、契約の証人だったからである。彼女は、あなたの連れ合い、契約によるあなたの妻であるのに、あなたは彼女を裏切った」。

　花嫁と花婿が、相手にウェディング・ケーキを食べさせるとき、

そこにはある象徴が含まれています。結婚は決して軽率に、または悪意をもってなされるべきではありません。これは象徴的に、「私はあなたの中に入り、あなたは私の中に入ります。私たち二人は一体となるのです」と言うことです。この象徴的な結合は、結婚の肉体的行為、すなわち花婿と花嫁が夫婦として性交を行うときに完成されます。

花嫁が処女の場合、処女膜が破れて血が流れます。このようにして、契約は完成します。これが血の契約とみなされるのです。こうして、夫が妻と性交を行う（肉と肉の間を行き来する）度に、彼は本質において、その契約を思い出し、それを履行しているのです。

ここで創造当初に戻り、神が言われたことを注意深く考察してみましょう。創世記１：27にはこう書かれています。「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された」。どういうわけか、私たちの性的独自性は、神がどのようなお方であるかを表しているようです。なぜなら、上の聖句の後半で、人は神のかたちに創造され、男と女とに創造されたとあるからです。なぜこの聖句は、私たちが神のかたちに、男と女とに創造されたと述べているのでしょう。神の属性を描くには、男女両方の属性または特性を要するということでしょうか。

ついでに、ヘブル語とアラム語で聖霊について理解するのは、非常に興味深いということを述べておきましょう。英文法には三つの性があります。「彼」と「彼女」と「それ」です。ヘブル語とアラム語は、「彼」と「彼女」の二性だけです。「それ」の概念がなく、聖霊は二つの内のどちらかに分類されることになります。ヘブル語聖書の注解を引用します：「ヘブル語とアラム語において、性は英語よりも重要な役割を果たす。さて、ヘブル語の『ルアク（霊）』

とアラム語の『ルカ』は、文法的には女性名詞であり、『ルアク・ハコデシュ（聖霊）』もそうです。これは、慰め主（『助け主』ヨハネ 14-16 参照）としてのルアク・ハコデシュの役割と、ヤーウェと共に『母親』を演じている『慰め主』（イザヤ 66：13 参照）の識別と調和している。・・・事実、ペシータ・アラム語訳のローマ８：16 においては、『彼女ルアクは・・・あかししてくださる』となっている。明らかにルアク・ハコデシュは、実際の性別を持ち合わせておられるわけではないが、ルアク・ハコデシュは文法的に、また比喩的に『彼女』として表されることも明らかである」。この事について、あなたがどのように思われても結構ですが、どういうわけか、私たちは男と女に、しかも「神のかたちに」造られたのです。確かにこれは、パウロが言うように、奥義（神秘）なのです。

結婚における性

聖書における性の四つの理由を見ていきましょう：

１）　神のみかたちを映し出す

２）　生殖

３）　親密

４）　悦楽

神のみかたちを映し出す：既に引用しましたが、創世記１：27 によると、人は「神のかたちに創造」されました。もしも私たちが神のかたちに創造され、結婚における密接な一体化によって、私たちと神との密接な関係が象徴されているとすれば、私たちは結婚の

領域においても、みかたちを反映しなければならないのです。

生殖：創世記４：１に、「人はその妻エバを知った」とあります。これは、生殖目的で行われた性交のことです。

親密：申命記24：５に次のように書かれています：「人が新たに妻をめとった時は、戦争に出してはならない。また何の務めもこれに負わせてはならない。その人は一年の間、束縛なく家にいて、そのめとった妻を慰めなければならない」。妻をよく知り親密になるには、時間を要します。

悦楽：箴言５：18-19を引用します：「あなたの泉に祝福を受けさせ、あなたの若い時の妻を楽しめ。彼女は愛らしい雌じか、美しいしかのようだ。いつも、その乳ぶさをもって満足し、その愛をもって常に喜べ」。新世紀訳聖書には、次のように書かれています：「あなたが若いときにめとった妻に満足しなさい。泉が水を与えるように、彼女はあなたに喜びを与えてくれます。彼女は鹿のように愛らしく、しとやかです。常に、彼女の愛があなたを幸福にするように。常に、彼女の愛があなたを捕らえて放さないように」。

ですから、結婚において夫婦が一つになり、性交を通して結ばれるとき、神のご品性を反映するためにそれを行うのです。無論、それを行うのは子供を産むためでもあり、非常に親密な関係と喜びを得るためでもあります。

神が親密な関係をお作りになり、サタンがそれを大いに歪めたのでした。結婚における性は極めて神聖なものであり、決して軽率に扱われるべきではありません。もしも神が意図された方法に従って結婚関係に入るなら、それは最も価値ある喜びを与えてくれます。

受ける代わりに、与えることから来る喜びです。「受けるよりも与えるほうが幸いである」と聖書は述べています。私たちは与えることで、予想をはるかに超えた幸いをいただくのです。

まとめ

結婚は創造主ご自身が制定なさった制度で、その目的は、男女にとっての最も深い、肉体的かつ霊的な一致の関係を表すためでありました。一夫一婦制は、神によって定められた結婚の形として、世の人々の前に標準を掲げています。夫と妻としての男女の結合は、肉体の結合、利害の共有、愛情交換を行うときに存在します。それは、神によって高く評価されているものです。なぜなら、神が私たちと、またご自分の教会との間に築こうと望んでおられる関係を象徴しているからです。このために、悪魔は結婚を、特にセックスを彼の特別な的として攻撃し、歪めてしまったのです。セックスがあまりにも通俗的になり、それに関わる人々にとっても、ほとんど意義のないものになってしまいました。性的結合を通して共に結ばれる、また一体となることの重要性が失われてしまいました。ほとんどのクリスチャンは、性的結合のときに結ばれる絆について理解していません。

神のご計画に従って、結婚という枠内で交わされるなら、有益なものとなり得ますが、結婚の枠外で交わされるとき、悪い結果をもたらすのです。

神は、結婚と性的結合によって男女が一体となることが、お互いを捧げ合う愛の関係、最も素敵な経験となるように意図されました。男性にとって、彼の妻は第一の愛情と義務の対象となるべきなのです。

第二章：魂の絆

神は、人が営む生活の全領域、特に性の領域に関わりたいと望んでおられます。皆さんが親密な関係を築くとき、神が皆さんの寝室に入っていけるようにすべきです。親密な関係に入る前に、祈りが常に必要です。このような考えは、ほとんどのクリスチャンにとっても異質なものです。このような事を提唱することさえ、奇異な目で見られかねません。最初に祈って神を寝室にお招きすることにより、皆さんの性生活は驚くほど変わることでしょう。祈りは常に、行動に変化をもたらしてくれます。神が自分たちを見ておられることを自覚するとき、寝室で行われる多くの事が変わるでしょう。

エデンの園において性的交わりを制定なさったとき、神は御顔を背けて、「こんなもの見ていられない。汚らわしい」とは言われませんでした。サタンは悪人たちを用いて、結婚した男女の生活の営みにおけるこのすばらしい領域の重要性をゆがめ、希薄なものにしてしまいました。

今こそ、結婚と夫婦の契り（寝床）を、神が意図された標準に戻すべき時です。世の中で、またクリスチャンの間でさえ行われている、すべての梯子床（梯子酒に引っ掛けて、次から次へとセックスの相手を変えて渡り歩くこと）を止める時です。寝室である事について合意に達したからというだけで、それが正しいとは限らないこ

とを、夫婦は悟るべき時です。寝室で行われている罪を止め、この関係の美が回復されるべき時です。性行動は一つの礼拝形式であることを、理解すべき時です。その礼拝は、夫婦の交わりにおいては、神に対して成されますが、結婚外の性行為はサタン礼拝となります。ゆがめられた性は、偶像礼拝の一形式なのです。

この小冊子に書かれている言葉が、何らかの形でクリスチャン夫婦の心に触れ、彼らの感化によって多くの若者たちが、神が真剣に扱われる事柄を軽率に扱うことの恐ろしい結果を回避するようになることが、私たちの祈りです。聖書に織り込まれている神のご計画(マスタープラン——総合基本計画)、すなわち神は、私たちが営む生活のすべてに関与したいと望んでおられることを、引き続き覚えておくことができますように。生活のあらゆる側面において、私たちは神に栄光を帰すべきであります。愛の神は、私たちの結婚が彼の御目に清く汚れなきものとなり、神の花嫁である私たちのために用意された御国に至るようにと望んでおられるのです。

神は、論理的に考える能力を私たちに与え、別の存在に結びつく受容力を持った存在として私たちをお造りになりました。神は私たちに、聖霊を心に受け入れる能力をお与えになりました。これは、私たちが神につながり、彼のようになるという特殊な目的のためでした。Ⅰコリント６：17では、次のように述べられています：「しかし主につく者は、主と一つの霊になるのである」。神は、私たちを縛りつけるようなことはなさいません。自らの内にどちらの霊を宿らせるかを選ぶ自由が、私たちに与えられています。それはつまり、聖霊の代わりに悪霊を受けることもできるということです。Ⅰコリント10:20では、次のように述べられています:「そうではない。人々が供える物は、悪霊ども、すなわち、神ならぬ者に供えるのである。わたしは、あなたがたが悪霊の仲間になることを望まない」。

上の聖句では極めて明確に、悪霊すなわち悪魔が人間をコントロールできることが述べられています。

明らかに、私たちは他の人間や偶像と結びつく受容力も持ち合わせています。Ｉサムエル 18：１ではこう述べられています：「ダビデがサウルに語り終えた時、ヨナタンの心はダビデの心に結びつき、ヨナタンは自分の命のようにダビデを愛した」。民数記 25：５にはこう書かれています：「モーセはイスラエルのさばきびとたちにむかって言った、『あなたがたはおのおの、配下の者どもでペオルのバアルにつきしたがった（結びついた）ものを殺しなさい』」。ペオルのバアルとは偶像、当時拝まれていた偽の神でした。

人が悪魔に結びつく方法は数多くあります。ここで、ある不可解な物語を紹介しましょう。何年も前に、私たちはある三十代前半の女性の世話をしていました。会話の中で、彼女は多くの男性と肉体関係を持っていたことを認めました。私たちが霊の戦いについて、また見えない勢力（悪霊）が如何に人間を苦しめ得るかを説明したとき、彼女は非常に興味深い話をしてくれました。彼女がある青年と性的関係を持っていたとき、悪霊が文字通り彼女の中に入ってくるのを感じ、この悪霊が、異性関係の領域で彼女の生活を支配し始めたそうです。この青年は、これまでのどの男友達よりも、彼女を冷酷にあしらうようになりました。その青年とは別れますが、再び彼のもとに帰ってよりを戻しました。自分がなぜよりを戻そうとするのか、全く理解できないと彼女は言いました。彼女の不道徳な生活は続きました。何度も主に立ち返ろうとしましたが、その度にみだらな生活に戻っていきました。彼女を押しとどめていたものは何だったのでしょう。なぜ彼女は、男の許に帰り続けたのでしょう。

私たちの誰もが一度や二度は、非常に粗悪な生活状況に戻り続け

る人がいるのを見て、驚きあきれたことがあるはずです。そのような人の相手は暴力的だったり、酒や麻薬に溺れていたりするわけです。かつての関係が懐かしくなって、それが断ち切られるのを恐れるようになるのでしょうか。かつての相手に対し、何か義務感を覚えるようになるのでしょうか。快楽の刹那が忘れられなくて、あるいは何らかの結びつきがあって、それに引きずり戻されてしまうのでしょうか。多くの場合、人々は、「自分がなぜもとの関係に戻り続けるのか分からない」と言うでしょう。何らかの答えがあるはずです。

魂の絆、心の絆とは？

　心または魂の絆を通して、ある人や物に結びつけられるとは、どういうことでしょう。まず聖書において、「魂」と「心」が何を意味するかを探らなくてはいけません。広い、様々な意味があるのです。

　聖書における「魂」は、定義づけて一つの意味に絞るのが非常に困難な言葉です。その言葉は何度も、「霊」という言葉と置き換えられ、時にはヘブル語が「心」を表すときに用いる言葉とセットで用いられます。次に挙げるいくつかの聖句を考察してみましょう。「魂」という言葉について説明しています。

心または知性：

- …あなたのみわざはくすしく、私の魂はその事をよく知っています（詩篇 139：14 欽定訳）。

- 人（魂―欽定訳）が知識のないのは良くない・・・(箴言19：２)。

感情：

- わが魂はわたしのうちにうなだれる・・・(詩篇 42：６)。
- 私の魂はいたく悲しむ・・・(マタイ 26：38―欽定訳)。
- そのときわが魂は主によって喜び、その救いをもって楽しむでしょう（詩篇 35：９)。

願望：(魂が欲に駆られることもある)

- …あなた（の魂）がほしいだけ…（申命記 12：20)。
- おまえの心（魂―欽定訳）の喜びであったくだものはなくなり、・・・(黙示録 18：14)。

故に、この記事の目的に沿って、これらの聖句から、私たちは「魂」を、心、知性、感情、願望、人がこの世界で実際的に生きることを許す人間の一部として定義づけることができそうです。

この時点では、ヘブル語の理解による「心」の意味について考察するのも有益でしょう。聖書の中で、ほとんどの場合、人の内面的性質を総合的に表す言葉として、その用語は比喩的に使用されています。それは、人の思いの中心と関連しています。事実それは人の中枢、特に選択能力と精神状態の中枢を表象します。エレミヤ 17：９にはこう書かれています：「心はよろずの物よりも偽るもので、

はなはだしく悪に染まっている」。イエスは、マタイ 15：19 で、「というのは、悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心の中から出てくる」と言われました。魂と心は密接に関連しており、私たちの日常生活において重要な役割を果たしています。

さて、親密な関係を考察するに当たって、聖書ではある興味深い言葉遣いがなされています。

創世記２：24 ではこう述べられています：「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」。これは、「一体となる」ことの肯定的な側面です。Ⅰコリント６：16 に書かれている否定的な側面を見てみましょう：「それとも、遊女につく者はそれと一つのからだになることを、知らないのか。『ふたりの者は一体となるべきである』とあるからである」。ここで、「一体となる」という句が、全く異なる二つの背景において使われています。最初の聖句では、男女の結婚の契り（契約）と関連づけて使われています。二番目の聖句では、不法な性行為または姦淫のことが述べられています。にもかかわらず、どちらの場合も「一体となる」と言っています。それは明らかに、単なる性行為以上の意味があります。さて、もし「心」と「魂」が精神や知性や感情や願望、そして人の中枢、特に選択能力と精神状態の中枢と関係しているとすれば、「一体」というのは、心や魂と明らかに関連していると尚も論理づけることができます。つまり、「一体」として結び付けられることは、精神や感情や選択能力や精神状態を含み、心や魂との固い絆ができるということです。かくして、私たちはそれを、魂または心の絆と呼ぶわけです。上の聖句に関して言えば、一方は（結婚関係内での）肯定的な絆、もう一方が（結婚関係外での）否定的な絆となります。ですから誰でも、肉体的にも精神的にも肯定的な経験を持つことも、

否定的な経験を持つこともできるわけです。

「一体となる」ことによって、感情や思考やその他の移入が起こる、ということはあり得るでしょうか。

明らかに、かつて肉体関係を持っていた男性の許に戻り続けた若い女性の場合がそうでした。彼女はこの男性や他の複数の男たちと親密になることによって、自らを彼らに結びつけたのでした。こうして、彼女はこれらの男友達と「一体」となったのでした。彼女は、この男性や他の男たちと感情的な絆を結んでいました。これらは、結婚外での不当な性的関係でした。悪霊たちはこれらの性交渉を利用する法的権利を持つことになり、このような男たちの様々な弱点を利用し、性交渉の間にまんまと彼女に入り込むのです。

二人の者が「一体」となるときに何が起こるかを、サタンはよく理解しています。「一体」となることは、契り（契約）を結ぶことに関係していることを、彼はよく知っています。聖書によると、結婚が床入りによって完成するときに、男と女の間には契りが結ばれるように、結婚した二人には同様のことが起こります。これは、サタンが最も喜んでゆがめようとする領域です。なぜならそれは当人に影響を及ぼすだけでなく、それに関わった人たち全員にも及ぶからです。

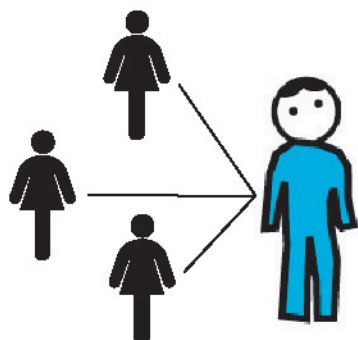
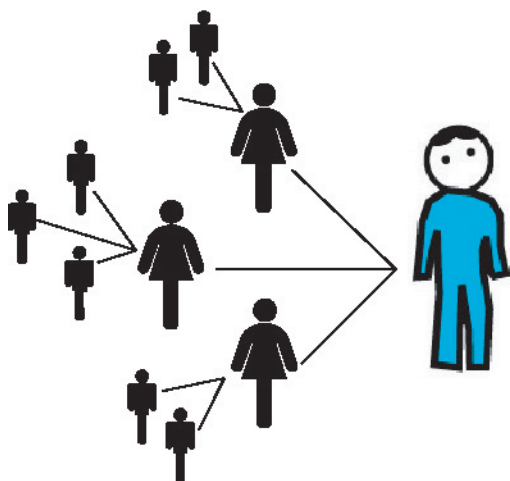
エイズの危険について人々に呼びかけているテレビ・コマーシャルがある、と聞いたことがあります。そのコマーシャルの中で、男女が共にベッドに入っており、次のような字幕が現れるそうです：「知っていますか？あなたは、彼がこれまでに関係を持った人たち全員と寝ているのですよ」。（病）理学的なレベルにおいても的を射た言葉です。が、人々が分かっていないのは、霊的なレベルにおい

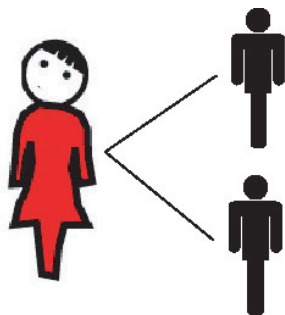
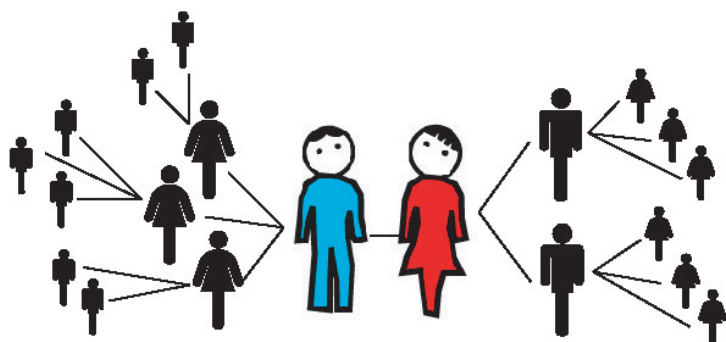
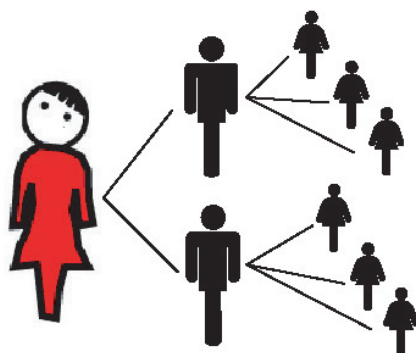
ても何かが起こるということです。説明のために、ある仮想の状況を作り出してみましょう。

鉄男と奔子の二人は、結婚する計画でした。鉄男は、奔子の他に、少なくとも三人の女性と肉体関係を持ったことがありました。鉄男と関係を持った女性たちは、不倫乃と娼婦と淫子の三人でした。不倫乃は、貞無と無節操と冷淡の三人と肉体関係がありました。娼婦は、眼流と釜雄の二人と肉体関係がありました。淫子は変矢と少なくとも一度関係を持っていました。分かりますか。鉄男を除いても、九名の人が含まれています（これをマルチ・レベル・セックスとでも呼びましょうか）。驚かれるかもしれませんが、今日、ある人たちは結婚するまでに、十から五十名の相手と肉体関係を持つと言われています。

さてここで、奔子の場合を見てみましょう。奔子は、物汚と暴言と猥介の三人と性的関係を持っていました。物汚は、遊女と毛羽子と露出子の三人と肉体関係がありました。暴言は、夜子と昼子の二人と関係がありました。猥介は無徳子と同棲していながら、他の女性たち、淫乱と刹那の二人と性的関係を持っていました。ここで、奔子側の総数を算出してみましょう。彼女を除いて、十一人が含まれます。

鉄男の側で算出された九名と、奔子側の十一名を足すと、二十名になります。つまり、鉄男と奔子が結婚する場合、実際には他の二十名の人々とも婚姻関係を持つことになるのです。その結果彼らは、これら多くの人々との関係を背負い込むことになり、それによる影響を受けたり、苦しめられたりすることになります。その理由は、神が結婚した男女のために定められた契約関係を、彼らが破ったからに他なりません。

鉄男と奔子の二人は
結婚する計画でした。

鉄男は、奔子と婚約する以前に
少なくとも三人の女性と肉体関
係をもったことがありました。

鉄男の元彼女の内二
人は、他の男性二人
と肉体関係を持ち、
もう一人は三人の男
性と関係を持ってい
ました。

奔子は鉄男と出会う
以前に二人の男性と
肉体関係を持ったこ
とがありました。

奔子の元彼氏達
は奔子との前に
それぞれ三人の
女性と性的な関
係をもったこと
がありました。

さて、ここで計算をして見ましょう。鉄男の側の男女は１０組のそれぞれ異なった関係ができていました。奔子の方は８組でした。それぞれを合わせると合計18組になります。

このように、それぞれの過去の性体験を掘り下げれば掘り下げるほど、全く嫌気が差してきます。さて、ここに真に悲しむべき事実があります。聖書によると、二人の人が性交渉を行うとき、彼らは一体となります。彼らは契約を交わすのです。そして、これは礼拝形態の一つですので、この場合、間違った神を拝むと（偶像崇拝）、魂の結び付きを通して悪魔が相手の弱点を移入させるための法的権利を得ることになります。魂の結び付きとはすなわち、基本的に人の生命中枢である知性と感情と願望を通してなされるものです。自分たちが一体何者なのか分からなくなり、混乱しているという人たちが少なくないのも、そのためなのです。彼らは、過去に自分たちが関わった人たち全員の、多くの異なる人格側面に翻弄されているのです。サタンは、似たような弱点を利用するようです。つまりこうです。もしも鉄男が不安と恐怖心といった弱点を持っているとしたら、悪魔は必ず、彼が肉体関係を持った他の個々人の同じような弱点や特性を利用することでしょう。短気という弱点などは、肉体関係の鎖に属している一人を通して移入されたかもしれません。悪魔はこの事を知っていて、これらの弱点に次から次へと乗じる、彼の悪霊部隊を動員し続けるのです。それから彼らは、それぞれの状況に合った暗示を、タイミングよく吹き込むのです。

　多くの場合、これらの弱点は助長され、定着したものとなります。なぜなら、一体となることによって発生した感情的な性質を悪霊たちが利用し、移入させるからです。

　ある若い牧師が、聖職に就いてから数年後、何か異変に気づきました。以来、仕事に行き詰まってしまいました。友人である別の牧師を訪ね、問題解決の手助けをしてくれるようお願いしました。友人が尋ねた最初の質問は、結婚する前とクリスチャンになる前、あるいは牧師になる前に、何らかの性的関係を持ったことがあるかと

いうものでした。この若い牧師は、かつて十人の女性と関係したことがあることを打ち明けました。同様の経験を通ったことのある友人は、これらの女性たちと結んだ魂の絆を断ち切り、これらの絆を利用してきた悪霊の権利を無効にする必要があると告げました。この事を遂行しようとしたら、彼が関係したある女性の名前を挙げたときに、彼の口を使って悪魔がこう言いました。彼女の名前を出して、「あの女はだめだ」と。やがて分かったことですが、この女性は魔術に関わっていて、魔女としての彼女の霊が、魂の絆という法的な結び付きを通して、この牧師を尚も悩まし苦しめていました。これは極めて深刻な問題であり、肉体的、知的、感情的なものであろうと、性的交わりがなされるときに、その問題は生じるのです。これらの絆が断ち切られ、悪魔の権利が破られなければなりません。

この章では、性的罪を通して人々を結び付ける絆や、彼らを思いのままに支配する悪魔の法的権利について、率直かつ前向きに、しかも慎重に論じていきたいと思います。

キスと性行為（礼拝？）

興味深いことに、ヘブル語とギリシア語において「キス（接吻）する」という意味の言葉には、「礼拝する」という意味もあります。銅像に接吻し、敬意を表する、または礼拝行為とする人たちもいます。セックスもまた、礼拝形態の一つです。結婚した男女が結婚の契りにおいて性的に結ばれるとき、神に栄光を帰すためにそれを行うのです。しかし、もし結婚の関係外で性交が行われるとしたら、栄光と礼拝はサタンに対して捧げられることになります。イスラエ

ルの人々が金の子牛を造ったとき、彼らの礼拝の一部に性行為が取り入れられました。彼らは踊り、性的に戯れたのでした（出エジプト 32：６参照)。ある意味においてすべての行為は、礼拝の一つの形態と言えます。「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」（Ｉコリント 10：31)。

聖書の時代に存在した異教の多くは、性と深い関わりを持っていました。

聖書に出てくるアシタロテ（フェニキアの女神）崇拝においては、儀式の一つに、神殿男娼や神殿娼婦との性交がありました。彼らは彫像とでも性交を行いましたが、これらはすべて、礼拝の一部だったのです。

性行為は礼拝の一形態であることを、悪魔はよく知っています。ですから、彼は性を激しくゆがめ、利己心という彼の品性を反映するまでに堕落させてしまったのです。故に、不道徳な性行為は、サタン崇拝なのです。

サタンが結婚関係外での性的交わり（これが彼に、この領域における支配権を与えます）を通して人々を結び付けているというショッキングな現実は、深く吟味されねばなりません。あらゆる性と性的関係を通して、サタンは世界を結び合わせ、人々を彼の配下に置こうとしています。世の人々、またクリスチャンであっても、この罪に陥り、悪魔の力に悩まされています。何と恐るべき、深刻な事態でしょう！

結論

　読者の皆さんは、「この魂の絆というのは、人にどれほどの影響を及ぼすのだろう？」といった疑問を持たれたかもしれません。もう一度、「魂の絆」の意味をおさらいしてみましょう。二人の人が（善悪を問わず）性的接触において一緒になるとき、二人の魂、精神、知性、感情また願望が結合し、付着し、一つになり、連結し、合流します。

第三章：性的罪

聖書によると、性的結合はつなぎ合わされることであり、または「一体」になることです。結婚関係内でなされようと、結婚関係外でなされようと、肉体的にまたは思いの内でなされようと、この結合または「一体」になることが起こってしまいます。ですから結論は、二人の人を結び付ける一体化は、肉体的のみならず、霊的にも起こるということです。接触期間がどれほど短くても、明らかに一体化がなされるのです。これらの性的接触が同じ人と何度も行われた場合、疑いなくその接合はますます強まり、癌のように増大するのです。この接合また混合は、個々人の生命の中枢である精神や感情や願望であるところの、心と魂に関係しているのです。

二人の人が性的に結合するとき、何らかの契約または合意が交わされることになります。

ですから聖書では、彼らは「一体となる」と言われているのです。つまり、性交の間は一つの肉体となり、精神と願望においても一つになるということです。これは礼拝の一形態であるため、結婚関係外でなされると、それは悪魔崇拝となります。その場合、お互いの弱点でもって相方を悩ます法的権利を、悪魔に与えることになります。

聖書の中に何度も、イスラエルの栄枯盛衰の記録が見られます。堕落の度に、間違った影響力との関係または結合があり、同様に霊的向上があるところには、神との結合または連結がありました。言い換えれば、イスラエルの霊的生命は、ことごとく、彼らが誰と結合し、あるいは何に連なっているかにかかっていました。彼らが偶像崇拝に関わっていたときには堕落し、天の神とつながっていたときには霊的繁栄を享受しました。

彼らが異教の男女と関わりを持つようになったとき、彼らは堕ちていきました。なぜなら、それは肉体的また霊的姦淫に相当したからでした（姦淫とは関係を破壊することです）。時代は変わっても、人は変わらないものです。

結婚した男女の間だけに親密な性的関係が生じるよう、神が意図されたことを理解するのは重要なことです。その性的関係の内に、ある非常に重要な事が起こることも、神はご存知でした。ヘブルの思想によると、「一体となる」というのは、一人の人、一つの肉体、一つの個性または人格になることでした。

夫と妻にとって、この親密な時間は極めて美しい経験となるべきでした。なぜならそれは、イエスがその子らとの間に望んでおられる美しい関係を象徴していたからでした。ゆがめられた関係ではなく、それは霊的指針（ガイドライン）と原則に基づいた純粋な関係なのです。世界に罪が侵入するや否や、サタンは、性をゆがめる働きを開始しました。かつてアダムとエバは光の衣に覆われていて、裸であったけれども、恥ずかしいとは思いませんでした（創世記２：25参照）。しかし罪を犯してすぐに、彼らは身を隠してしまいました。

神が、彼らを捜しに園にやって来られたとき、「アダムよ、あなたはどこにいるのか？」と言われました。すると、アダムはこう答えました:「・・・わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」。光の覆い（カバー）はどこに行ってしまったのでしょう？どういうわけか、純粋な天の光が除かれるまで、アダムとエバは自分たちが裸であることを恥ずかしいとは思いませんでした。彼らは、イチジクの葉をつづり合わせてエプロンを作り、腰の周りに巻いて性器を覆ったのでした。

なぜ彼らは、自分たちの顔を覆わなかったのでしょう？どういうわけか、彼らは突然、裸であることを恥ずかしいと思うようになりました。その時以来、サタンはセックスと性の問題を恥ずべきものとするように画策してきました。神はこれらの関係を、神が私たちとの間に築きたいと望んでおられる親密な結合の象徴とされたので、サタンはあちこち駆け巡ってそれを醜いものとし、彼が人々にしたいと望んでいること、すなわち人類を滅ぼすための道具としたのでした。彼は、私たちをイエスとの親密な関係から遠ざけるため、魂の絆またはかせをもって私たちをがんじがらめにしたいと望んでいるのです。

結婚関係外での性行為

今日、ありとあらゆる種類の性行為が、飲食や着替えと同様に日常茶飯事のものとなっています。結婚した男女に神がお与えになった特別な賜物が、日常のまた通俗的なものとなっています。結婚関係外でも多くのセックス・フレンドを持つことは、今日の流行になりました。テレビのトーク番組や様々な雑誌が、不法な性行為を奨励しています。事実、セックス・フレンドを多く増やしていくこと

が、自慢の種にさえなっています。四、五年前にある報道雑誌で、十一歳から十四歳までのある少年グループのことが取り上げられました。彼らは、どれだけ多くの女の子をナンパして、ベッドインできるかを互いに競い合っていたそうです。何という悲劇でしょう！このような愚行を続けることにより、親密で美しい経験が、通俗かつ不潔なものに変わってしまうのです。

再び、結婚関係外の性行為について、聖書が何と言っているか見てみましょう。Ⅰコリント６：16 にこう書かれています：「それとも、遊女につく者はそれと一つのからだになることを、知らないのか。『ふたりの者は一体となるべきである』とあるからである」。ここで、「遊女」という言葉について、非常に興味深い事柄を探っていきましょう。多くの人は、この言葉を女性である娼婦だけに当てはめます。辞書を調べても、「遊女」とか「売春婦」といった女性を表す言葉でしか説明しないからです。

上の聖句で「遊女」を意味するギリシア語は「ポルネ」です。このギリシア語は、不品行から来ている言葉、「ポルノ」に付属します。この場合、不品行者ということで、男女の区別はありません。これはまた、結婚した人がよその人と性的関係を持つという意味で、姦淫にも相当します。

不品行者とは、どのような人のことでしょう。ランダム・ハウスの辞書には、「結婚していない二人の人の間、または互いに結婚していない二人の人の間における自発的な性的接触」とあります。他に導き出せる結論はないので、結婚関係外での性行為に関与する人は皆、不品行者または姦淫を行う者となるのです。

上の聖句を見ても明らかですが、「遊女につく者はそれと一つのからだにな」り、「ふたりの者は一体となる」と言うとき、二人を結ぶ絆が存在するようになります。確かにある絆が結ばれ、性的罪に関するこの小冊子では、まさにこの事が述べられているのです。それは、私たちを縛りつけて、罪の様々な道へといざなうための法的権利を悪霊どもに与えてしまう絆なのです。これはサタンに栄光を帰すことであり、事実上の悪魔崇拝であります。神は結婚関係内でのセックスを認可なさり、悪魔は結婚関係外でのセックスが人々から認可されるように求めているのです。

性的倒錯

同性愛：ホモセックス（同性愛）またはバイセックス（両性に対し性的欲求を持つこと）が性的倒錯の領域に入ることは、論じるまでもないでしょう。聖書はこの点について極めて明確です。多くのキリスト教の指導者らが聖書を曲解して、この罪深い行為を大目に見ている現状には、全くあきれてしまいます。これは神への冒涜行為です。この罪悪に関与し、これを続けるすべての者は、神の責めを逃れることなく、火の池に投げ込まれることでしょう。神の清い王国には、このような罪が入り込む余地はありません。

聖句をいくつか考察してみましょう：

レビ記 18:22､「あなたは女と寝るように男と寝てはならない。これは憎むべきこと（冒涜）である」。

申命記 23：17､「イスラエルの女子は神殿娼婦となってはならない。またイスラエルの男子は神殿男娼となってはならな

い」。

ローマ１：26-32、「それゆえ、神は彼らを恥ずべき情欲に任せられた。すなわち、彼らの中の女は、その自然な関係を不自然なものに代え、男もまた同じように女との自然の関係を捨てて、互いにその情欲の炎を燃やし、男は男に対して恥ずべきことをなし、そしてその乱行の当然の報いを、身に受けたのである。そして、彼らは神を認めることを正しいとしなかったので、神は彼らを正しからぬ思いにわたし、なすべからざる事をなすに任せられた。すなわち、彼らは、あらゆる不義と悪と貪欲と悪意とにあふれ、ねたみと殺意と争いと詐欺と悪念とに満ち、また、ざん言する者、そしる者、神を憎む者、不遜な者、高慢な者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者となり、無知、不誠実、無情、無慈悲な者となっている。彼らは、こうしたことを行う者どもが死に価するという神の定めをよく知りながら、自らそれを行うばかりではなく、それを行う者どもを是認さえしている」。

ゆがめられた（倒錯した）性行為に携わるときにも、魂の絆が結ばれることを理解するのは、極めて重要であります。それらは神が意図されたことに全く反しているため、これらの絆はより一層強いことがあります。故にそれは、サタンが侵入し、餌食の周りに彼の軍団を送り込むための門戸を広く開くことになるのです。

今日、性の領域において多くの嘆かわしい行為が見られます。それらは乱交、小学生の性教育、漫画本における好色、セクシー・ビデオゲーム、そしてインターネット上のポルノサイトへの容易なアクセスによって生まれます。社会の性的関心には、限りがありません。高速道路を走っていても、あなたの注意を引くためにデザインされた裸同然の女性が、ビルボード（広告掲示板）上に描かれてい

ます。ミルクの宣伝ですら、「ミルク飲んだ？」と言う宣伝文句で性的な暗示をしています。

どちらを向いても、報道雑誌の挿入写真やテレビの状況喜劇でさえ、どれも性的な要素を含んでいます。トーク番組でも、視聴率を上げるために、不潔で卑猥な言葉を実際に使わずに、話の内容をはなはだきわどいものにします。セックスは、生活のほとんどあらゆる分野の一部となっています。露出度を多くした OL からミニスカートをはいて教会に出席する女性たちに至るまで、目の行き場がないほどです。教会内の男性たちが自らの思いを制し、彼らの目を潔白に保つために、天井を見ていなければならないことなど、彼女たちは恐らく悟ることも、気にすることもないのでしょう。

私たちは性的なものが充満している社会、ほとんど何でもありの社会に住んでいます。道徳は、キリスト教界においてすら、ほとんど水泡に帰しています。これが、性に関して神が真に意図されたことにおいて、道徳の低下をもたらしました。性の領域について牧師たちが信者らに語っている事柄にも、聖書的でない場合がいくつもあります。多くの牧師たちが、自分たち自身の性的好みに合わせて助言を与えているのです。

問題は、極めて率直にならない限り、これらの事を論じる術はないということです。さもなければ、大いに誤解され得るでしょう。再び、これが多くの人にとって有益なものとなり、間違った性的習慣によって囚われの身となる可能性が大いにあることを理解する手助けとなることを、私たちは祈ります。

次に、多くのクリスチャン、特に若い世代のクリスチャンに受け入れられている性的倒錯の領域を見てみましょう。

オーラルセックスとアナルセックス

多くの人たちは、これについて語ることすら不謹慎に思われることを、私たちは承知しています。彼らにとって、これらを行うべきでないのは当たり前のことでありましょう。しかし、あなたは次のことを十分に理解しなくてはいけません。オーラルセックスやアナルセックスは、多くの牧師や教会の指導者たちによって、いいこととして奨励されているのです。このために、クリスチャン夫婦の寝床においてさえ、罪悪がまかり通っているのです。多くのクリスチャンたちが、このような事に関わっています。彼らの理屈は、聖書の中に、「あなたはオーラルセックスとアナルセックスをしてはならない」と述べている特定の戒めはない、といったものです。しかし、聖書には確かな原則があります。

多くの牧師たちの間に、寝床で行うことについて結婚した男女が互いに同意したものなら、聖書にそれは間違っていると書かれていない限り、何であっても許されるといった共通の考えがあります。今日、聖書の中に名指しで非難されていない罪が数多く存在します。例えば、聖書はビデオゲームが悪いなどとは一言も述べていません。しかし聖書は、占いまたは魔術にふけることなく、悪から目を守るようにと言っています。**二人の大人が互いに同意するならば何であっても0.K.** との原則を一律に当てはめるならば、聖書中に特に記載されていないとの理由で、やれる事がいくらでも出てきます。

このような思想がキリスト教界に浸透していて、「人それぞれ」とか、「気持ち良ければそれでいい」といった風潮を教会にもたらしたとは言えないでしょうか。キリストの体なる教会は、彼らの内にキリストがとどまり難くなるようなところまで妥協してしまったのでしょうか。

多くの人が、結婚している夫婦が互いに同意している限り何でもO.K. と言いたいがために、ヘブル13：４の聖句を誤って解釈しています。このように書かれています：「すべての人は、結婚を重んずべきである。また寝床を汚してはならない。神は、不品行な者や姦淫をする者をさばかれる」。これを、別の二つの訳で読んでみましょう。まず、新米国標準訳です：「すべての人の間で結婚を重んじ、夫婦の床を汚してはならない。なぜなら、不品行者と姦淫者を神は裁かれるからである」。次に、新国際訳から引用します：「結婚は、すべての人によって重んじられ、夫婦の床は純潔に保たれるべきである。なぜなら神は、姦淫を犯す者と、性的に不道徳な者をすべて裁かれるからである」。「寝床を汚してはならない」との言葉は、何でもやっていいとの許可を与えているわけではありません。むしろ、「寝床」または「夫婦の床」は、夫婦間の親密な関係を当たりさわりなく述べていると捉えるべきです。聖書が「結婚を重んずべきである。また寝床を汚してはならない」と述べている理由の一つは、夫婦関係が、キリストの花嫁として私たちが彼と築くべき、純粋で汚れのない関係の象徴だからです。

「汚れ」とはどういう意味でしょう。夫婦にとってはどういう意味でしょう。新約聖書の神学辞典、953ページによると、それは「しみをつける」、故に「よごす、汚染する、または道徳的意味において汚す」、更には「罪悪感または悪魔的な手法」の暗示的意味があります。

さて、ヘブル13：４の後半部は非常に興味深いものです：「なぜなら神は、姦淫を犯す者と、性的に不道徳な者をすべて裁かれるからである」。これは夫婦の床、または親密な関係と同じ文脈内にあります。姦淫の一側面に、他人の配偶者と、あるいは結婚関係外で別の人と親密な関係を持つ、というのがあります。ところがこの聖

句は続けて、姦淫は性的不道徳であると述べています。「姦淫、不品行」といった言葉は、非常に広い領域を占めています。それは不倫を越えて、性的倒錯にまで及びます。身体にとって不自然な性行為のことです。

まず私たちは、人体の構造について考えなければなりません。神は、私たちの体をどのような機能を果たすように造られたのでしょう。神は私たちを、一定の働きと機能を持つ諸器官で構成されるように造られました。例えば口は、食物を食べ、感情と表現をもって言葉を形成するように出来ています。肛門の辺りは、身体の老廃物を排泄するように出来ています。同様に神は、ある一定の方法で適合し機能するようにと、生殖器を造られたのです。男性の生殖器は、女性の生殖器に適合するように造られています。身体の内に、神が生殖の目的でデザインされた部分は他にありません。

男と女の生殖器の根本的機能は、繁殖すなわち子供を産むことと、快楽を味わうことです。オーラルセックスやアナルセックスによって、子作りをすることはできません。神は私たちを、このような方法で機能するようには造られませんでした。

私たちのために神が意図された自然の方法というのがありますが、それもゆがめられてしまっています。ローマ１：26にこう書かれています：「それゆえ、神は彼らを恥ずべき情欲に任せられた。すなわち、彼らの中の女は、その自然な関係を不自然なものに代え」た。もともとのヘブル語訳には、次のように書かれています：「このために、エロア（神）は、彼らを恥の欲望に任せられた。なぜなら彼らの女たちは、自分たちの性の使い道を変え、不自然なことを行ったからである」。次に、ユダヤ聖書の完全版から引用します:「それゆえ、神は彼らを堕落的欲望に任せられた。それは、彼らの女た

ちが自然の性的関係を不自然なものと取り替えるためである」。明らかにこの聖句から、男女が親密になるようにと神がデザインされた自然の方法があるに違いないのです。

アナル（換言すれば不自然な）セックスは、同性愛者らが用いる方法であることも、留意すべきでしょう。そもそも聖書によると、男女の結婚関係外で親密な関係が起こることは、許されていませんでした。恐らく最大の問題は、「性の欲求充足」が、男女の性的関係の主要なまたは最重要部となっていることでしょう。それが、「私を満足させないと、誰か他の人のところに行くわよ」といった利己的な考えを生み出します。性に関しては、快楽の追求が、人を駆り立てる原動力となってしまっているのです。

聖書によると、神が最初にアダムとエバに言われた言葉は、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ」でした。これは明らかに、子作りを促している言葉です。そして子作りは、性行為によってなされます。神は、「私はお前たちが、性生活のための規則や指針を自分たちで作る権利を与える。お前たちが互いに同意することなら何でもやってよろしい」とは言われませんでした。神は、愚かなお方ではありません。神は、サタンの倒錯した思いが人に働いていることをご存知です。これほど重要な生活の営みについて、やりたいことは何でも勝手にできる無制限な自由など、神は決してお与えになりません。

もしもあなたが、多くの人が（性的に）互いを扱っているような方法で自分の車を扱ったとしたら、すぐに故障してしまうことでしょう。もしガソリン・ノズルをエンジン・オイルの注入口に突っ込んで、クランク室をガソリンでいっぱいにし、エンジン・オイルをガソリン・タンクに入れたとしたら、車はどれくらい走るでしょうか。直ちにエンジンが止まってしまうことでしょう。

このような種類のセックスに関与するとき、親密な経験が自己充足と肉欲の修羅場と変わります。これは、性体験が何か官能的で不潔な、そして品のないものとされた原因の一つなのです。神が私たちに経験してほしいと望んでおられる美しい関係が、止んでしまうのです。そしてこれは、悪魔に忠誠を尽くすことになるのです。明らかに、神に栄光を帰していないからです。それは偶像崇拝の一形態です。なぜなら、それは真の神を礼拝しておらず、サタンを礼拝しているからです。なぜなら、それはサタンの意図する性行為だからです。

ファンタジー

ファンタジーとは何でしょう。ランダム・ハウス辞典には、「空想、特に過度のまたは抑制されていない想像や幻想、精神的画像の形成、自らの願望が果たされた場合の想像の連続、空想的な思考または創作」とあります。ファンタジーの定義は他にも数多くありますが、性欲や性的罪について思いの内に巡らされることと関連付ければ、上に挙げた定義がベストと言えましょう。明らかに、空想や夢想は思考や精神の内に起こることであり、そこで精神的画像が形作られるわけです。

多くの場合、そういった画像には自らも出演しています。例えば、イエスはマタイ5章の中で、「だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである」と言われました。この聖句は、人が思考の中で経験することを暗示しています。言い換えれば、思いの内に描かれる画像の中を生きるのです。女性との性的接触を思い描き、それに自ら参加するのです。これは、空想や夢想（ファンタジー）の定義、つまり「自らの願望が果たされた場合

の想像の連続」に見事適合します。今日、多くの人たちが空想すなわちファンタジーの世界に住んでいるという事実を解明してくれます。なぜならファンタジーはいつでも入手可能であり、願望に応じて操作することができ、ある程度満足のいく結果を導き出すことができるからです。現実の世界を生きるよりも容易であるという理由で、ファンタジーの世界に生きる人たちがいます。空想の世界に長く生きていると、多くの場合それが現実となり、実際にそれを演じようとするようになります。無論これは、腐敗した想像以外の何ものでもありません。腐敗した空想や夢想を通じて、心も腐敗します。ファンタジーは、悪魔の強力な道具なのです。もしも人を空想へといざなうことができれば、その人を罪に陥れるチャンスが広がることを、悪魔は知っています。一旦罪に陥れば、その問題は心に定着することになります。

　ファンタジーまたは腐敗した空想を、神に捧げられた想像と混同しないで下さい。神は、私たちに想像力を与えられました。言葉は、心に映像を描かせます。イエスはこの事をよく理解しておられました。譬でお話しになり、それが心に映像を描かせました。種を蒔きに出て行った人の話や、砂の上に家を建てた人の話を読んで、心の中でその光景を描かないわけにはいきません。ですから神は、私たちの理解力を助けるために、この賜物を与えられたのです。

　悪魔は常套手段として、人を破滅させるために、神が与えられたものをゆがめて用いてきました。親密で情熱的な快楽の経験は、知性と感情に半永久的に刻み込まれます。すると私たちの一生涯、想像の中で、人か悪魔によって容易に再生されるのです。それだから、私たちはいかなる種類の悪に対しても、特に性的空想から五感を守らなくてはいけないのです。

もし私たちが、ファンタジーまたは邪悪な想像について適切に理解するなら、私たちの思いを拘束するために、悪魔がこの方法で働きかけることを悟るでしょう。悪魔は私たちを、現実であれ空想上であれ、性的な経験につなぎとめておこうとします。勿論、性的な事柄以外の状況においても、ファンタジーに浸ることはできます。この世界は、もし何かを一定の間心に描いておくならば、それが私たちの一部となるという思想を奨励してきました。確かに、これには真理が含まれています。「私たちは、見ることによって変えられる」と預言者は言っています。研究を続けるに当たり、結び付ける絆として、ファンタジーが如何に主要な役割を果たすかを見ていきましょう。

情欲

ファンタジー（空想）と情欲は、性的罪の領域においては対のようなものです。情欲とは何でしょう。ローマ６：12 にはこう書かれています：「だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることを」してはならない。ヴァインズ聖書辞典によると、この聖句は、「だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて」はならないという命令、つまり、私たちの死ぬべき体を罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることに対する命令になります。「情欲」というのは、肉体の行為でもって表現したいとうずうずしている肉欲のことです。ローマ１：27 を読んでみましょう：「男もまた同じように女との自然の関係を捨てて､互いにその情欲の炎を燃やし」た｡･･･ここで用いられている「情欲」という言葉は、「・・・を得ようと努めること」と訳されます。つまり、あらゆる欲望の包括的な用語です。

聖書の中で情欲は何度も言及されており、様々な用いられ方をしています。例えば、エペソ２：３においては、「肉とその思いとの欲するままを行う肉欲」について述べられています。これらの肉欲は、精神の強い欲望(情欲と同じギリシア語)を暗示しています。ローマ１：24には、「心の欲情」とあります。黙示録18：14には、「おまえが熱望した（情欲と同じ語）果物」と書かれています。これら三つの聖句において、情欲は肉体を通して、また精神と心と魂を通して起こり得ることが分かります。情欲というのは、人の構造に深く関わっているようです。

ある箇所でむさぼるという意味に用いられているギリシア語も、他の聖句で情欲に用いられている言葉と同じだということを理解するのは、非常に興味深いことです。ある場合において「むさぼる」という言葉は、「不当に思い焦がれる、熱心に希望する、もっと所有したいとの願望、他の人に属するものを持ちたいとの願望」を意味します。情欲とむさぼりの二語の意味を、性的罪の文脈において一つにすると、視野を大きく広げてくれます。次のようになると思います：「肉体の行為でもって表現したいとうずうずしているこれらの不当な願望は、更なるものを切望し、他人に属するものまでも切望する」。

情欲は頂点に君臨します。なぜなら、いかなる性的罪も、まず情欲から始まるからです。これらの願望、思考や心に描く像は、肉の思いを行動へと駆り立てます。情欲は男性におけると同様、女性の内にも浸透しているということを知って、ショックを受ける人がいるかもしれません。私たちが住んでいる（何でもO.K.という）寛大な社会と大きく関係していることは、疑うまでもありません。

それを行動に移しさえしなければ、情欲を抱くのは一向に構わないという思想を、多くの人が奨励しています。ある著名なラジオ番組の司会者がいて、その人の番組はクリスチャンの家族に焦点を当てています。番組の司会者が次のように言いました：「もしもある男が女の人を見ているときに、風で彼女のスカートがめくり上げられ、脚部のかなりの部分が現れても、実際に行動に移さない限り、その光景を眺めて性的な思いに浸ることは問題ではない」。イエスは、山上の垂訓の中でこう言われました：「しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである」。「肉体の行為でもって表現したいとうずうずしているこれらの不当な願望」は、姦淫を犯すことの一側面なのです。

「情欲」と「むさぼり」は、生活の他の分野にも多く参与していますが、それを「性的な罪」という観点から考察したいと思います。情欲はあらゆる性的罪の基底部、根幹部または始まりとなるようです。なぜなら、それは心の中で生まれ、それから実際の行動に移行するからです。それはもともと心中の空想（ファンタジー）または産物であるため、個々人の願望に合うように創造される訳です。情欲や心の空想がこれほどまでに好まれる理由は、いつでも思いのままに抱くことができ、決して裏切ることがないからです。思いの内に抱かれる情欲を通して多くの人を他の人に結び付ける心と魂の絆が、時には成長して強固なものとなり、はがねのようになって人を束縛し、支配するに至ります。今日見られる多くの邪悪な行為は、情欲から溢れ出たものです。「肉体の行為でもって表現したいとうずうずしているこれらの不当な願望は、更なるものを切望し、他人に属するものまでも切望する」のです。

ポルノ

かつてポルノは、探し求めて初めて得られるものでした。ポルノ雑誌などは、通信販売を通してのみ入手可能でした。それからアダルト店なるものが合法化され、様々な本や雑誌、性的玩具などが置かれるようになりました。それでも、定まった年齢に達した者でなければ入店はできませんでした。時代は変わり、インターネットの普及により、誰でもパソコンのスイッチを入れ、キーを押しさえすれば、ポルノを楽しむことができるようになりました。また、ビデオや DVD をデッキに入れることさえできれば、誰にでも見ることができるようになったのです。

「言論と表現の自由」が認められる世の中になって、かなりの年月がたちました。老若男女に関わらず、人々の心は、最も忌まわしい性的な思いで満ちています。これらの忌まわしい写真や映像は、電話回線を通じて、世界のどこでも入手可能になりました。その結果コンピューター画面に、何百年もの間ゆがめられた性を実践してきた文化が映し出されるようになりました。ポルノ産業は、ますます大胆になる一方です。それに関わる人たちは、E- メールをやり取りしているときにも、突然ポルノの画像を登場させるようなことをも、難なくやってのけます。

ありとあらゆる階層の人々、聖職者から小学生に至るまで、ポルノ産業の奴隷となる人々が日に日に加えられていきます。視覚という神から与えられた賜物を通じて、悪魔はものの見事に人々を破滅させているのです。

ここでしばらくの間、ポルノという言葉を考察し、そのルーツを探って見ましょう。ランダムハウス辞典では、ポルノ（正しくはポ

ルノグラフィー）を次のように説明しています：「わいせつな文学、芸術または写真、特に芸術的な価値をほとんど持たないもの」。それから興味深いことに、同辞書はポルノグラフィーの語源となるギリシア語「ポルノ」と「ポルネ」を紹介しています。これらの語を聖書語句辞典で調べてみると、「不品行（姦淫）」に用いられていることが分かるはずです。では、少し引用してみましょう：「『ポルネ』は、遊女または娼婦のこと。その語源は、金銭で売買される男娼、放蕩者または道楽者を意味する『ポルノス』」。

更に、「ポルノス」という語は、「売る、取引する、または隷属状態にする」という意味の語「ペルネミ」から来ています。「ポルノグラフィー」という語は、あらゆる「不品行」の源となる様々なギリシア語から来ているのです。

ここで質問ですが、上の解説はどれも、ポルノを作り出す人だけに当てはまるものでしょうか？それとも、ポルノを見て、それで心を満たす人にも当てはまるものでしょうか？再び、マタイ５：28を欽定訳で見てみましょう：「しかし、私はあなたがたに言う。誰でも女性を見て、彼女に対して情欲を抱く者は、心の中ですでに彼女と姦淫をしたのである」。見て・・・情欲を抱くということ、それはポルノを楽しむ人が行っていることです。ここの原則は、男性にも女性にも当てはまります。そして、「肉体の行為でもって表現したいとうずうずしているこれらの不当な願望」という情欲の原則を理解するならば、ポルノを見てそれで心を満たす、つまり心に様々な場面を描く人にも当てはまることが分かるのです。この事を行う人は、男であろうと女であろうと、その人が見ているコンピューター画面や雑誌と性交を行っていることになるのです。

この事を行う人は、悪魔と交わっていることになります。つまり、肉を拝んでいることになります。このような情欲は、決して満足させられることがありません。ポルノによって掻き立てられる情欲は、人を暗黒の深みに陥れ、ついにその人は、すべてを失ったことに気づくのです。

この汚れた習慣にふける多くの人が忘れがちな点は、家族、特に子供たちに及ぶ影響であります。私たちは絶えず、聖天使と悪天使の軍勢が戦っている世界に、自分たちが住んでいることを認識しなくてはいけません。誰一人尊重することなく、すべての人を破滅させようと努める悪霊たちに、私たちは取り囲まれています。信心深い両親を持つ子供たちは、彼らの道徳的傘の下で守られています。けれども、父親か母親が肉の欲に身をゆだねると、これが悪霊に、保護の垣根を崩す許可を与えることになります。文字通り、悪天使らを家庭に招き入れることになるのです。男女を問わず、人がポルノに同調するとき、闇の世の主権者との固い絆を結んだことになるのです。

父親か母親が夜寝ていて、悪魔に気を許して邪悪な像を思い描くとき、これらの悪霊の活動は、そこだけに止まりません。彼らは喜び勇んで子供たちの寝室に入り込み、同様の邪悪な思いでもって子供たちを攻撃するのです。これらの無防備な子供たちは悪魔の捕虜となってしまいますが、そのための門戸を広く開いたのは、どちらかの親なのです。確かに神は、私たちに性欲を与えられましたが、この性への衝動を適切に用いるよう監督するガイドラインも与えておられます。戦うための武器や、制御するためのブレーキも与えておられます。それはとりもなおさず、今日、性の領域においてはびこっている悪に勝利するためなのです。

忌まわしい絵や写真を見ているからといって、これらの絵や写真を見て欲情する人は誰でも娼婦か男娼、または放蕩者になるということでしょうか。つまり、ポルノに関与する人は姦淫者になってしまったということでしょうか。読者が判断すればよいと思います。どのような見方をしようと、これは極めて深刻な問題なのです。ポルノが人々を更なる罪の深みへと導く理由は、これが不品行（姦淫）だからです。罪の深みとは、マスターベーション、レイプ、諸犯罪、結婚した夫婦の寝床においても行われる性的逸脱などです。ガラテヤ５：19-20によると、不品行者が神の国を継ぐことはありません。もしもこれが真実であれば、ポルノの罪にふけり、そこから抜け出ようとしない人は誰でも、永遠の御国から永久に除かれてしまうことでしょう。悪魔は人々に、クリスチャンでありながらポルノにふけっても大丈夫だと信じ込ませようとしています。何という嘘でしょう！

これら様々な形態のポルノは、人を邪悪な絵や写真という糸で縛りつけることでしょう。一度これらの邪悪な絵や写真が心に刻み付けられると、絶妙のタイミングで悪魔がそれらを再生してくれます。神がこれらの絵や写真を記憶から削除して下さらない限り、いつまでも居座り続けることになるのです。

これらの絵や写真を除き去るのに、時には何年もたゆまず、真理の学びで心を満たさなくてはいけない場合もあります。これらの絵や写真を再生するために、悪魔は日夜、機会をうかがっています。けれども神は、この誘惑の束縛から必ず救い出して下さるでしょう。イエス・キリストの福音の中に盛り込まれた戦いの武器が、救いに至る神の力なのです。このような罪に陥った人たちを、神は救うことがおできになります。キリストは、囚人を解放するために来られました。これはつまり、束縛の絆を断ち切ることは可能であり、自

由を望む人は誰でも完全な自由を得ることができる、ということです。

マスターベーション（自慰）

多くの心理学者や療法士（セラピスト）、教会の指導者たちまでが、マスターベーションは聖書で特に罪とされていないので、この習慣に浸っても構わないという思想を奨励しています。聖書の中で特に言及されていなくても、罪は罪であり、そういったケースは数多くあります。しかしながら、聖書の指針（ガイドライン）を当てはめることによって、いかに不道徳な原則が罪として現れるかを理解することができます。マスターベーションも、道徳的な罪として現れるこれらの習慣の一つです。再び、マタイ５：28でイエスが言われた言葉を見てみましょう：「しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである」。マスターベーションは、大部分において、単なる機械的行為ではありません。精神を性的状況に固定する情欲と空想、実際にその空想（ファンタジー）に参加することが、オルガズム（性的快感の絶頂）という結末をもたらすのです。故にそれは、想像、しかもゆがめられた想像という情欲から来るのではないでしょうか。従って、イエスによると、心の中で抱かれる情欲は実際の行為と同じであり、それから心の中のみだらな画像を使って、マスターベーションという次の段階に移行するのです。その画像の中では、実際に本人が参加するわけで、このようにして性的罪が継続されます。汚れた霊が性的想像を作動させ、情欲と罪を生み出す様々な欲望を掻き立てていることは、疑いの余地がありません。この激しい情欲が、空想の中で思いを遂げるという結末を演出するわけです。これが他の相手との実際的な行為と、心の中でなされ、マスター

ベーションによって肉の思いを遂げる行為との間に、何か違いはあるでしょうか。結果は同じであり、どちらも罪の度合いを増すばかりです。

恐らく、私たちがここで言及したもの以外にも、多くの性的習慣が存在することでしょう。が、ここでは主流の性的習慣だけを取り上げました。人と人との間で行われるもの以外にも、多くの性的習慣がありますが、それらの明らかな間違いを敢えてここで指摘する必要はないでしょう。単純で美しい、神が意図された結婚の親密な関係から逸脱しているものは、何であっても罪であり、偽りの神に敬意を表していることになるのです。不自然なセックスに携わるとき、それがサタンに門戸を開き、彼が更なる堕落と腐敗へといざなうのです。そしてサタンは、罪悪感と羞恥の思いを抱かせて、人を苦しめます。それはまた、ありとあらゆる病気を引き起こす環境をも作り出します。双方が同意した上でのことだから、それに携わっても大丈夫だなどと言う人に、惑わされてはいけません。あらゆるゆがめられた性的関係は、人の生涯に影響を及ぼし、多くの場合、これらの絆はその人を生涯縛り付けることになるのです。

第四章：魂の絆を断ち切る

証

　霊的領域についてよりよい理解を得、どのように敵に勝利するかをもっと学ぶことは、過去五年にわたり、「戦いの武器」を用いることにより奇跡に次ぐ奇跡を目の当たりにしてきた私たちにとって、熱い情熱を注ぐ対象となりました。

　今から一年ほど前、夫のジョーと私は、二人の生活を満喫していて、日々主が私たちの結婚を祝福し、充実感を与えておられるようでした。それから四月のある朝、姉から電話があり、私が十五年前に付き合っていたもと彼氏が亡くなったことを知らされました。姉は、彼女が住んでいる町の新聞にスティーブの写真と死亡記事が載っているのを見て、私に知らせようと考えたのでした。スティーブの職業、住所、喪主である妻の名、葬儀の日程などについての記事を姉が私に読んでくれたとき、私が覚えていた彼の状態、すなわちアルコール中毒が原因で死んだのだろうかと考えてしまいました。残念ながら、死亡記事は死因について触れていませんでした。私は、「まあ、いいか。どうせあいつはだめ人間だったし」と思い、彼との数多くのいやな思い出を姉に話していました。

　電話を切ってから、聖霊が私に、心の中でスティーブに対して抱き続けてきたたくさんの苦々しい感情について示してくれました。

私たちは、知らず知らずのうちに悪い精神に浸ることができますが、全く愚かなことです。直ちに私は床にひざまずき、主に心を注ぎ出して祈りました。主に赦しを請い、私が抱いてきた怒り、悪意、恨み、批判などの悪霊から清めてくださるように祈ったのです。それから、イエスの力強い御名によってサタンを叱責し、私の前に現れて、スティーブと私に対して彼が行ってきたことを示すよう命じました。それから私は、天使たちと聖霊が私の周りを囲むようにと祈り求めました。

気がつくと私は、心がスティーブに対する同情に満たされて泣いていました。彼が何度も、私とやり直したくて連絡してきたことを思い出しました。あれから十五年、「覆水盆に返らず」の心境で、私は打ちひしがれていました。もう和解することはできないのです。驚いたことに、スティーブは私たちの家からほんの一時間のところに住んでいたそうです。双方の生活に平和をもたらすための試みを、私は容易にすることができたはずです。

その日の午後、祈りのうちに神と格闘した後、私は立ち上がり、何があっても神に信頼することを誓いました。たとえ私が、過去において別の領域でめちゃくちゃな事をしていたとしても、神に信頼しようと誓いました。その日の夕方、夫が仕事から帰宅したとき、私たちの古い友人（ジョーもスティーブとかつて交流がありました）が亡くなったことを知らせました。ジョーは私に、葬儀に参加したいかと尋ねました。私は躊躇なく、「それだけはいや」と答えました。

あれほど苦痛に打ちのめされたばかりだったし、彼の友達や家族との交流を断ってから十五年もたっていることを思うと、葬儀に行っても仕方がないだろうと考えました。しかし私の夫は、二人で葬儀に行くべきだと感じていました。夫は、「スティーブの奥さん

に電話して、彼がどうやって死んだのか尋ねてみようか」と言いました。私は、「別に構わないわ」と答えました。そこで私たちは、聖霊がジョーを通して語って下さるようにと祈ってから、連絡を取りました。電話で話した後で夫が描写してくれたところによると、スティーブの妻は、すばらしい、愛情深い、そしてひどく傷ついた女性であるとのことでした。ジョーは、二人で葬儀に行くことを決断しました。私は姉にも電話し、一緒に葬儀へ行こうと誘いました。

多くの祈りで武装しつつ、私は恐る恐る葬儀の会場に入っていきました。会場はバイク乗りと、もとアルコール中毒の人たちでいっぱいでした。様々な人たちが語るスティーブの人生の物語を聞きながら、神がアルコールと麻薬の問題から私をいやして下さったことを感謝せずにはいられませんでした。そして神は、スティーブと結婚することによってもたらされたであろう痛ましい生活から、私を救って下さったのでした。神は私をいやし、救って下さったばかりでなく、あのかつての生活に戻りたいという願望をすべて取り除いて下さいました。

式の後、私たちはスティーブの妻に話しかけようと、前の方へ行きました。遺体は既にだびに付されており、棺はありませんでした。ハーレーに乗っていたとき、ワゴン車に当てられ、頭を強打して即死したそうです。あるのは、紫の新車バイクに乗っている彼の写真だけでした。「まあ、何てかっこいい男性でしょう！」と私は思いました。「会っていない年月の間に、ますますいい男になっている！」私はそこに立ち止まり、彼の写真をずっと眺めていたいという衝動に駆られました。いつの間にか、私の心は彼に惹きつけられていて、奇妙な、何とも言えない方法で、かすかな光がぱっと私の中に入るのを感じました。「何だか変だわ」と思いました。信じられないほどの引力でした。私は心の底から、彼と話をしたくなりました。私

は文字通り、無理やり自分の頭の向きを変え、その場を立ち去らねばなりませんでした。このままでは目立ってしまうと思ったからでした。幸い、幾人かの古い友達と話をすることができました。夫と姉がいてくれたのは大きな祝福でしたが、あの写真がずっと私を呼ぶので、会場を出るまでに二、三度回れ右をしてしまう始末でした。私の心は、全くよそから来たと思われる感情と競い合っていました。

帰りの車の中で、私はひどい後悔と落胆と呵責の念に襲われていました。スティーブが死ぬ前に、彼と一度も連絡を取ろうとしなかったからです。なぜ神は、そうするように私を導かれなかったのか？私の頭の中は、十五年間忘れていた彼との楽しかった思い出が駆け巡っていました。彼ともう一度だけ話をしたいという強烈な願望に襲われ、胸がドキドキしていました。

その晩家に戻って、私は次のように結論付けました：「スティーブと私は強く惹かれ合っていたが、それは悪魔の仕業によるもので、再会すれば、私の幸福で恵まれた結婚生活に大きなひびが入りかねなかったため、神は私たちを疎遠なままにしておかれたのだ」と。悪霊たちの勢力は強すぎて、とても太刀打ちできないように思われたので、私は、いつも最善をご存知の神に信頼することを誓ったのでした。神のご配慮に感謝し、私たちは床に就きました。

翌日、私は悪霊の総攻撃に遭っていました。私の心は、ひたすらスティーブを思い焦がれていました。この事を気付かせて下さったことを神に感謝し、直ちに霊の戦いの祈りを開始し、スティーブに惹かれる思いを譴責しました。戦いは続きましたが、私はイエスの力強い御名で武装し、負けてなるものかという気持ちでした。

数日の間に、私の確信は多少揺らいでいました。スティーブとの思い出に浸っていたのです。後悔と落胆の念でいっぱいになりました。更に悪いことに、ハーレー（オートバイの名前）の音が聞こえてくるたびに、心臓の鼓動が高鳴るのです。バイクの後ろに飛び乗って、以前のように何日も自由な気持ちで走りたい、との衝動に駆られました。「ハーレーの新車を買うのはどうかしら？」と夫に言うと、「気は確かか？」と言われました。夫は親身になって、私たちの商売の景気や、教会での立場について語り、私を説得しようとしました。「僕たちが突然バイク乗りになってしまったら、いい証にはならないのではないだろうか」と静かに諭してくれました。でも私は、自分の主張を正当化するのに困難を覚えながらも、とてもすばらしいアイディアだと思ったのです。

「一体どうなってしまったんだ？」と夫は尋ねました。

全く私らしくない振る舞いが目にあまり、「最近すごく変わってしまったみたいだよ」と言ったのでした。私はやっとの思いで、スティーブの葬儀に出席してから、自分が悪霊の攻撃に遭っていることを伝えました。油を注いで祈ってくれるようお願いすると、夫は直ちに応じてくれました。ジョーの祈りは効果があったみたいで、その後は力が戻ったように感じました。

数週間が過ぎた頃、私は、ミネソタに戻ってきていたスティーブの妹テリーと、電話で何時間も話をしました。そして、私と別れてからのスティーブの生活について詳しく聞き出したのです。しかし私は依然として、もと彼氏の死を悼んでいました。自分でも説明がつきません。「いつまでもくよくよしているのは、全くばかげている」と思いました。

五月が終わる頃には、半狂乱の状態になっていました。昼間は何度も祈り、悪霊を叱責しました。スティーブへの思いは大分治まっていましたが、私の人生は全く無意味で、多くの好機を逃してしまったとの思いにさいなまれていました。落胆、後悔、罪悪感、不安、不満、そしてハーレーに乗って、この人生の重荷から解放されたいという強烈な願望に襲われました。私は自分自身に向かって、「霊の戦いについては良く知っているので、このような悪霊の攻めに屈するはずはないのに」と何度も言いましたが、自由になる力は残っていないようでした。

更に何週間かたち、知恵と導きと識別力を祈り求め続けました。尚もうつ状態は続いていました。とうとう、ある考えが浮かびました。「サタンは私に対して、何らかの法的権利を持っているのだろうか？私のこの問題が、スティーブの死を境に起きていたことは分かっている。人が死んだら、その人に取り付いている悪霊はどこに行くのだろう？悪霊は人と一緒に死ぬわけではない。十五年間スティーブと接触したことは一度もなかったのに、彼の問題は、何か私と関係のあるものだったのだろうか」。昔のスティーブを回顧すると、彼はいつもうつ気味で、不満げで衝動的、過去を引きずっている人物であったことを思い出しました。それらはまさに、私が経験していた感情そのものでした。スティーブを通して、悪霊が私に乗り移る法的権利を持っていたのでしょうか。「イエス様、助けて下さい」と私は嘆願しました。「何をすればよいのか教えて下さい」。

それから数日後に、アンカー・ミニストリーのマーティン夫妻と会うことになりました。霊の戦いについて学ぶ機会が持てることになり、ジョーと私はわくわくしていました。

私の知らないところで神は働いておられ、私を攻撃していた悪霊どもを完全に打ち破るために必要な答えを与えようとしておられたのでした。マーティン夫妻は、性的関係によって結ばれる魂の絆についてのビデオを見せて下さいました。「これだ！」と私は叫びました。「私を縛りつけていたのはこれだわ」。いろいろな思いが頭の中を巡りました。極めて単純なことです。サタンは私に対して法的権利を持っていました。なぜなら、性的関係を通して、私とスティーブは「一体」となっていたからです。私は姦淫の罪を告白しただろうか？「一体」の者として私とスティーブを結び付けていた絆を断ち切るよう、私は主に願っただろうか？Ｉヨハネ１章の約束を求めつつ、私を赦し清めるよう、主に願っただろうか？

聖霊が直ちに、私に祈るよう招いて下さいました。「イエス様、ありがとうございます！」と叫びたくなりました。早く家に帰って、箴言５章を一節ずつ読みながら、呪いを祝福に変えて下さいと主にお願いしたくなりました。

その日の晩、ジョーと私は二人で祈りました。二人だけで、それぞれの過去の親密な関係を天の父に告白しました。それから二人で、箴言５章を読みました。神は、私たちの願いに速やかに答えて下さり、私をがんじがらめにしていた悪霊どもから完全に解放して下さったのでした。

振り返るたびに、私の心は、完全なタイミングで光を送られる全能の神への讃美と感謝の念でいっぱいになります。去年の夏に私が経験した試練は、私の内でプラスに働き、天父へのより大きな信仰と更なる謙遜、そして特に行き詰まったときに自分の感情に頼らないことを会得させてくれたのでした。主は私に、性的「魂の絆」について理解させて下さいました。その事を、私は決して忘れないで

しょう。主は私に、贖い主の愛に浴するとき、いつの日かスティーブに償いをする機会を得るという、心からの確証を与えて下さいました。現在、私の夫への愛情と献身は強まり、神から戦いの武器を得た私たちは、これまで以上に安定しています。

私は心のうちで叫びます：「イエス様、ありがとうございます。すべての力と勝利はあなたの内にあります」と。

結婚についての章の次に、恐らくこの章が重要なものとなります。「心の絆」または「魂の絆」を断ち切る過程は極めて重要です。いかなる罪に勝利する場合もそうですが、そこには過程が存在します。そして、これは心という戦場で戦われます。そこではサタンが働きかけ、自らの魂の絆という砦を築きます。これは霊的な戦いであり、霊的な方法で戦わなければなりません。それは、神の勢力とサタンの勢力との超自然的な戦いなのです。

人々は無知の故に、魂の絆を結ぶことがあります。ホセア４：６に、「わたしの民は知識がないために滅ぼされる」と書かれています。まず教育し、魂の絆について理解させた上で、悪魔の権利を無効にすることができるのです。訳が分からず、自分たちが奴隷となっていることすら分かっていない人に、絆を断ち切りたいとの願望を抱くよう期待することはできません。この領域においては、何が関わっているかについて徹底的に理解する必要があります。

自由を必要としている人は、まず魂の絆の存在を認め、これらの束縛から自由になりたいという決心をしなければいけません。自由になるためにはどんなことでもやってのける決意をしなければいけません。長年にわたり、法的権利がサタンに与えられていることがあります。祈りを通して、神はなすべきことを知らせて下さること

でしょう。

魂の絆を断ち切る祈りの準備において、あなたが関わったことのある人たちや、移入された品性の特徴について思い出させて下さるよう、神に願って下さい。落胆、憎しみ、怒り、情欲、嫉妬、不安などは、魂の絆によってしばしば移入される悪魔的な感情の例です。ここで注意したいのですが、これまで関わったすべての人の名前を常に挙げる必要はありません。こうするときに、これらの性的経験が心の中で再現されるかもしれないからです。賢明な父なる神に、正しい祈り方を教えていただきましょう。

邪悪な魂の絆からの救出という、異なった側面に触れる特定の祈りについて紹介してきました。無論、言葉のマジックではありませんが、どういった言葉を用いるべきか知りたがる人たちもいます。できるだけ明細な祈りをするよう神は望んでおられると、私たちは考えます。次に、赦しといやしを求める祈りについて、四つの項目を挙げます。

1）すべての性的関係について深い悔い改めを経験し、性交を通して魂の絆を結んでしまった人たちのために赦しを祈り求める。

2）これらの関係を取り消し、自分から相手に移入した部分を取り戻し、相手から自分に移入されたものを取り除くために、魂の絆を断ち切るよう神に願う。過去を清算しなければならない。魂の絆を断ち切り､罪深い契りを無効に（キャンセル）するお方は、神でなければならない。自分の力で断ち切ることは決してできない。神だけが過去を明らかにし、失われたものを回復することがおできになる。私たち

が他の人たちと結んだ契りを無効にする権利は、神だけが持っておられる。

3）神は人間に、破られた結婚の契りを悪用してきた悪霊どもに対し、イエスの力強い御名において勝利する権威を与えられたのであるから、主に過去の名簿（リスト）を差し出して告白したら、悪霊どもに対する権威を持つことができる。

4）肉体のいやしも祈り求める。魂の絆を通して病気になることもあり得る。それが多くの病気の主な原因となり得る。

中には、１と２の段階を自分たちだけで行いたいと考える人たちもいます。家庭で内密に行う場合は、祈りのパートナーを見つけ、救出といやしを祈り求めて下さい。

あなたが祈り始めるときや祈りの最中に、肉体的な変調が起こるかもしれないことを承知していて下さい。ワーワー泣き出したり、大あくびを繰り返したり、内心ぞくぞくしてくることがあります。他の変調が起こることもあり得ます。もしもこれが起こったら、主を讃えましょう！神があなたのために働いておられることを、知らせて下さっているのです。すべては主の御手の内にあります。恐れを抱く理由は何もありません。何よりも、主がなさっていることについて、疑いを抱いてはいけません。疑いは、すべてを台無しにしかねません。

次に挙げる祈りは、ただの例に過ぎません。自分自身に関係しない部分は省いて下さい。

赦しを求める祈りと過去の清算

天のお父様、あなたと共にこの極めて厳粛な時を持つに当たり、あなたが天使たちの軍勢をお送り下さり、私を守って下さいますようお願いします。天来の防具で私を完全に覆って下さい。この部屋にいるかもしれないすべての悪霊は、ここにいる法的権利を持たず、隙を見て利用するためにここにいるわけですから、私はナザレのイエス・キリストの強力な御名において、ここから立ち去ることを彼らに命じます。お父様、どうか彼らを追い払って下さい。主よ、私をあなたのみかたちにかたどって創造して下さって、ありがとうございます。私の心が堕落しているために、誤った選択をし、罪を犯してまいりました。あなたの御前に罪を犯してきたことを告白し、特に今日は、へりくだって自分の性的罪を告白いたします。そして今、心からあなたにお詫びいたします。私の不純な思いと行為、あなたからのものでない関係を告白したいと思います。今日あなたの御前にて、あなたが私の過去を処理し、未来に備えて下さいますようお願いします。私の配偶者ではない人（たち）と性的関係を持ったことを告白いたします。これは姦淫の罪であります。私が犯してきた性的行為における、すべての性的堕落を告白いたします。そしてこれらの罪を告白するに当たり、私は神であられるあなたに、イエスの名において私の罪を赦し、すべての不義から私を清めて下さるようお願いいたします。

天のお父様、イエスの名において、私は今、私自身のために祈ります。心からへりくだり、聖霊の感化の下、私の人生における性的罪を処理したいとの願いが心の内に起こりますように。結婚関係外で（結婚関係内であっても）築かれた性的関係を処理したいと思います。私のところに来て、聖霊の力により私に触れて下さい。父なる神様、私を拘束してきた鎖やひもをほどいて下さい。あなたが奇

跡を行って、私の過去の絆をほどいて下さい。他の人々や写真に結ばれたために私から去ったすべてのものを、あなたが引き戻して下さいますようお願いします。私が久しく本心に立ち返るように、それらのものを取り戻して下さい。更に、私が自由の身となるために、私がこれまでに知った相手からもらったすべてのものを、あなたが取り除いて下さい。主よ、どうかこの事を行って下さい。鎖、すなわちすべての悪魔的な魂の絆を断ち切って下さい。すべての不信心な関係を断ち切って下さい。主よ、今それを行って下さい。私が自分で混乱を招いたことをお詫びいたします。今、それを清算させて下さい。

悪霊に対する権威を祈り求める

　天のお父様、イエス・キリストの御名において、これらの関係を通して入ってきた霊を追い払う権威を求めたいと思います。ホセアが述べている、売春の霊の呪縛を断ち切ります。偽りの礼拝という呪縛を断ち切ります。イエスの御名において、これらの関係を通して私の内に入ってきた悪魔の勢力に、今、私から出て行くよう命じます。イエスの御名において、私は姦淫の呪縛を断ち切ります。イエスの御名において、不品行の呪縛を断ち切ります。すべてのみだらな霊どもよ、イエスの御名においてお前たちの力を打ち砕く。私をとりこにしていた敵の力を打ち砕きます。イエスの御名において命じる。悪霊どもよ、出て行きなさい。これらの呪いを通してやって来た敵のかせを断ち切り、ナザレのイエスの御名において、私は悪霊どもに「出て行きなさい」と命じます。悪霊どもよ、お前たちはここから立ち去り、私を自由にしなければならないのだ。

天のお父様、悪魔は再びやって来て、私の思いを汚染しようと試みることでしょう。今、すべての扉を閉ざして、あなたの御旨に沿って意志を働かす勇気を与えて下さい。そうすれば、私はこれ以上不信心の道を歩むことはないでしょう。主よ、聖霊が私の内に働いて、誘惑にさらされたとき、あなたが約束して下さった方法でそれから逃れることができますように（Ｉコリント 10：13 参照)。敵を拒絶する力を与えて下さい。敵が私を誘惑しようと戻ってくるときに、状況を直ちに見極めることのできる識別力を与えて下さい。主よ、どうかこの日この時に、私を自由にして下さい。私は、永遠にあなたをほめたたえます。

いやしを祈り求める

天のお父様、私たちが性的罪に関わっているとき、敵は私たちの生涯に対する権利を持つようになると御言葉は述べています（箴言５：22 参照)。私の性的罪の故に、私を苦しめている病があるかもしれません。

主よ、もしも私が弱さや病を持っているならば、イエスの御名においてその弱さを呪います。イエス様、それが何であれ、私の性的罪の故にもたらされたこの弱さから、私を解放して下さい。私の精神に、私の意志に、私の肉体に、私の感情に、私の血管に、私の肉の体のどこであれ、私の内に巣くっている弱さの呪縛を断ち切ります。特に私は、私の生殖器の病気を引き起こしているかもしれない霊どもに、イエスの御名において立ち去るよう命じます。生殖器官にかけられているすべての呪縛（特に妊娠中絶を行った女性）を、私は断ち切ります。私はイエスの御名において、自らをとりこにしている敵の力を打ち砕き、妊娠中絶を通してかけられた呪縛を断ち

切ります。主よ、どうかあなたが私の体内にいやしの力を放たれ、回復が行われますように。悪霊どもが立ち去ったところをあなたの霊が満たし、私をいやして下さいますように。イエス様、敵の働きをくじいて下さってありがとうございます。イエスの御名において命じる。弱さの働きを行う霊は、すべて立ち去らねばならない。主よ、私のためにあなたが行っておられるみわざを通して、あなたの御名があがめられますように。今日、私を祝福して下さった故に、あなたを讃えます。

主よ、ありがとうございます。我が贖い主、救出者、またいやし主であられるイエスの御名において祈ります。アーメン！

ポルノを通して結ばれた魂の絆を断ち切る祈り

主よ、私をあなたのみかたちにかたどって創造して下さって、ありがとうございます。私の心が堕落しているために、誤った選択をし、罪を犯してまいりました。あなたの御前に罪を犯してきたことを告白し、特に今日は、へりくだって自分の性的罪を告白いたします。そして今、心からあなたにお詫びいたします。私の不純な思いと行為、あなたからのものでない関係を告白したいと思います。今日あなたの御前にて、あなたが私の過去を処理し、未来に備えて下さいますようお願いします。

私は自分がポルノに関係し、目の欲を通して、他の女性たち（または男性たち）と結び付いてきたことを告白いたします。これは姦淫の罪であります。私が犯してきた性的行為における、すべての性的堕落を告白いたします。そしてこれらの罪を告白するに当たり、Ⅰヨハネ１：９で約束して下さいましたように、私は神であられる

あなたに、イエスの御名において私の罪を赦し、すべての不義から私を清めて下さるようお願いいたします。

今私は、イエスの御名において、思いの内にあるポルノの呪縛を断ち切ります。これらの写真や映像といったすべてのかせを断ち切り、性欲の霊に立ち去るよう命じます。イエスの御名において、私はあなたから力を受けて、すべてのみだらな霊を断ち切ります。私をとりこにする敵の力を打ち砕きます。イエスの名において、私にかけられている呪縛を断ち切ります。ああ主よ、私の内にあなたの御霊が流れ、私の思いが清められますように。悪魔は再びやって来て、私の思いを汚染しようと試みることでしょう。今、すべての扉を閉ざして、あなたの御旨に沿って意志を働かす勇気を与えて下さい。そうすれば、私はこれ以上不信心の道を歩むことはないでしょう。主よ、聖霊が私の内に働いて、誘惑にさらされたとき、あなたが約束して下さった方法でそれから逃れることができますように(Ⅰコリント 10:13 参照)。敵を拒絶する力を与えて下さい。敵が私を誘惑しようと戻ってくるときに、状況を直ちに見極めることのできる識別力を与えて下さい。主よ、どうかこの日この時に、私を自由にして下さい。私は、永遠にあなたをほめたたえます。あなたの忍耐と憐れみと愛を感謝します。ナザレのイエス・キリストの御名において祈ります。アーメン!

祈りを終えた後で、自由と救出の喜びを経験することでしょう。ある人の場合は、それが何日か続きます。とにかく主を讃美して、救出が完全になされるまでそれを続けて下さるようお願いしましょう。また、非常な疲れを覚えるかもしれませんが、これは正常な過程です。なぜなら、時にはそれが肉体的な問題であったり、時には神が働きを続けられる間、あなたが休むよう神が望まれることがあったりするからです。これはとても美しい経験なのです。

敵は戻ってきて戸をたたき、多くの良からぬ思いを吹き込み、これまでの経験を疑わせようと試みることでしょう。一瞬たりとも、これらの思いに浸ってはいけません。悪魔が心の戸をたたくときは、これらの悪霊に対抗するために、「暗黒の勢力を打破する」という小冊子の最終章で紹介されている戦いの武器を使用して下さい。これらの武器を、手短に挙げてみます：

- 天来の防具でもって覆うよう神に願い求める。
- 祈る。
- いろいろな聖句を引用する（これがあなたの剣です）。
- イエスの名において悪霊を叱責する。
- 賛美歌を歌う。
- 主があなたのためになされたことを挙げ、声に出してほめ讃える。
- 主からの祝福を日毎に書きとめ、神があなたのためになされたことを悪魔に思い出させる意味で、それを読み上げる（敵はこれを非常に嫌がります）。

この事を覚えていて下さい。どれほど罪の深みに沈んでいようとも、救いの御手が届かない淵はなく、「お前が赦されることなどあり得ない」と悪魔がどれほどささやこうとも、それは嘘なのです。Ⅰヨハネ１：９に書かれている聖書の約束は、極めて明確です：「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」。恐らくイエスは、私たちのためにも次のような嘆願をされたことでしょう：「父よ、彼らをおゆるし下さい。彼らは、

何をしているのか分からずにいるのです」。もしも神が、一羽のすずめにさえも関心を払われるとすれば、間違いなく私たち一人ひとりに関心を払っておられるはずです。この事を忘れないで下さい。あなたが赦される者となるために、イエスはご自身の血を流されたのです。

イエスの額から流れた血、頭にかぶせられた
いばらの冠をつたって流れた血は、
私たちがよからぬ思いを抱いたことが、
すべて赦されるためであった。

イエスのお顔をつたって流れた血、
平手打ちにされ、ひげを引き抜かれたゆえに流れ出た血は、
私たちがよからぬ言葉を語ったことが、
すべて赦されるためであった。

イエスのわき腹から流れた血は、
私たちがよからぬ感情（怒り、憎しみ、情欲、落胆、その他）を
抱いたことが、すべて赦されるためであった。

イエスの足から流れた血は、私たちがよからぬ場所へ
行ったことが、すべて赦されるためであった。

イエスの打たれた背中から流れた血は、
彼が私たちの重荷をすべて背負われたために、
流れ出たのであった。

これらすべてのものが、祈り求めるだけで得られるのです。

私たちの働き

　私たちの目的は、夫、妻、両親、青年たちの生活のどの部分においてサタンが働いているのか、ということに焦点をあてることです。サタンは、彼らを罪の奴隷にし、福音の感化を及ぼさないようにし、霊的な目覚め（啓発）を妨げ、失望させ、うつ状態にし、道徳的な敗北者にしているのです。何よりも、サタンと暗黒の勢力に対するキリストによる大勝利を教え、伝えることが私たちの働きの究極的な目的です。信者の勝利は、キリストとの結合を通して与えられ、保たれるのです。すべての家庭において、職場において、特にサタンの偽りと攻撃が激しく、種々の罪に襲われるクリスチャンの私生活において、イエス・キリストはなお、主であり、救い主であるということを宣言することが、私たちの働きなのです。

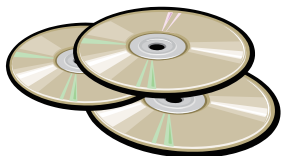
アル＆コレット・マーティン

Anchor Ministries International
Al &Collette Martin

P.O.Box 39
Days Creek,Or 97429
Tel: 1-(541)825-3407
Fax: 1-(541) 825-3260

WWW.AnchorMin.org
e-mail:anchor@pioneer-net.com

マーティン夫妻のセミナー収録集

“心の中の戦いに勝利する”

アル&コレット・マーティン
2005年秋セミナー収録集
CD（30枚）6,000円

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー
〒905-0428　沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471
TEL(0980)56-2783　FAX(0980)56-2881
contact@srministry.com　www.srministry.com

もっと詳しく知りたい方のために...

“厳粛な訴え”

E.G. ホワイト
A５版　80 頁　500 円

母親に対する訴え、感傷主義〔センチメンタリズム〕について、女性の慎ましさ、破られた律法、結婚関係など語られにくい事柄をあえてE.G. ホワイトは取り上げて厳粛に訴えている。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで